

令和5年4月28日（金）	資料1
令和5年度第1回 板橋区障がい福祉計画等策定委員会	

板橋区障がい者実態調査

（調査報告書 概要版）

令和5年3月

板橋区

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査期間	1
4 調査方法	1
5 回収状況	1
6 調査結果を見る上での注意事項	2
第2章 調査結果の詳細	3
1 あなたの障がいの状況について	3
(1) 障がい種別	3
(2) 障がい手帳の種別	5
(3) 障がいについての相談のきっかけ	12
2 介助・支援の状況について	14
(1) 日常生活での介助・支援の有無	14
3 相談や情報入手の状況について	16
(1) 悩みや心配事の相談先	16
4 障がい福祉サービスについて	17
(1) 障がい福祉サービスの利用の有無	17
(2) 障がい福祉サービスが必要な状況	19
(3) 障がい福祉サービスの利用状況・利用意向	20
5 日中の過ごし方について	24
(1) 平日の日中の過ごし方	24
(2) 園や学校生活での困りごと	26
6 就労の状況について	27
(1) 収入を伴う仕事の状況	27
(2) 仕事上での困りごと	28
7 外出や余暇の過ごし方について	29
(1) 外出する目的	29
8 災害時の避難などについて	30
(1) 災害時に一人での避難の可否	30
(2) 災害時の困りごと	32
9 差別や権利擁護などについて	34
(1) 障がい者差別の経験	34
(2) 障がいのある人への区民の対応や理解度	36
(3) 共生社会の実現のために力を入れるべきこと	38
10 障がい福祉への関心について	40
(1) 障がいのある知り合いの有無	40
(2) 福祉ボランティア活動への関心度	40
(3) 福祉ボランティア活動経験の有無	41
11 まちの環境や福祉施策について	41
(1) 障がい者施策において区に求めること	41

第1章 調査の概要

1 調査目的

令和6年度を計画始期とする板橋区障がい者計画・板橋区障がい福祉計画（第7期）・障がい児福祉計画（第3期）の策定に先立ち、障がい者の生活実態、生活自立度、障がいサービスの利用状況、障がいサービスに対する認知度・意識等を調査し、基礎資料とするため、調査を実施しました。

2 調査対象

板橋区在住の障がい者、障がい児の方を中心に、区民の方を無作為抽出6,000件

<対象者内訳>

- ① 身体障がい者(医療的ケア児含む) : 2,250 件
- ② 知的障がい者(児) : 1,050 件
- ③ 精神障がい者(児) : 800 件
- ④ 難病患者 : 700 件
- ⑤ 発達障がい者支援センター
(あいポート) 利用者 : 100 件
- ⑥ 児童発達支援事業所利用者 : 100 件
- ⑦ 一般区民 : 1,000 件

3 調査期間

令和4年9月7日(水)～9月30日(金)

4 調査方法

郵送及びインターネットによるアンケート調査

5 回収状況

調査区分	標本数(件)	有効回収数(件)		有効回収率
障がい児・者	5,000	2,148	(内訳) 郵送: 1,618 Web: 530	43.0%
一般区民	1,000	338	(内訳) 郵送: 243 Web: 95	33.8%

6 調査結果を見る上での注意事項

①本調査の回答者として取り扱う障がい者及び障がい児については、以下の回答をもとに抽出しています。

①障がい者……年齢を18歳以上と回答	かつ	障がい種別を回答した対象者	1,751名
②障がい児……年齢を17歳以下と回答	かつ	障がい種別を回答した対象者	359名

②本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。

③百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。

④複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合があります。

⑤本文、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。

⑥グラフにおいて、結果が0.0%のものは非表示としています。

⑦回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中ではふれていない場合があります。

⑧本文中では、調査結果の数値は「%」、比較によるパーセントの差は「ポイント」という単位で表記をしています。

⑨統計数値を考察するにあたっては、傾向をまとめて表現する場合には、おおむね以下のとおりとしています。

例	表現
17.0～19.9%	約2割
20.0～20.9%	2割
21.0～22.9%	2割を超える
23.0～26.9%	2割台半ば
27.0～29.9%	約3割

⑩本報告書内では、幼稚園・保育施設・認定こども園のことを総称して「園」といいます。

⑪本報告書内で表記する「障がい種別」は以下のとおりです。

身体障がい	視覚、聴覚、平衡機能、音声・言語・そしゃく機能、肢体不自由(手足の欠損や麻痺など)、内部(内臓など)の障がい
知的障がい	知的発達の遅れによる社会生活上の適応行動の障がい
発達障がい	自閉スペクトラム症、学習障がい(LD)、注意欠陥・多動症(ADHD)などの脳機能障がい
精神障がい	精神機能の障がいや精神疾患による障がい
高次脳機能障がい	事故や病気などにより脳に損傷を受けた後遺症による記憶、注意、社会的行動といった認知機能の障がい
難病(特定疾病)	治し方がわからないなど、治療研究等を国が主導で進める必要がある難治性の疾病

第2章 調査結果の詳細

1 あなたの障がいの状況について

(1) 障がい種別

問 あなたの障がいは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【障がい者】

障がい種別は、全体で「身体障がい」の「肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）」が24.8%と最も高く、次いで「難病」が23.4%、「知的障がい」が17.9%、「精神障がい」が17.4%となっています。

複数の障がいがあると回答した人で、「身体障がい」、「発達障がい」があると回答した人では、「知的障がい」もある人の割合が高くなっています。「知的障がい」、「精神障がい」、「高次脳機能障がい」、「難病」があると回答した人では、「身体障がい」もある人の割合が高くなっています。

障がい種別 その内訳 複数の障がい種別と	調査数 (n)	身体障がい (内 訳)								知的障がい	発達障がい	精神障がい	高次脳機能障がい	難病 (特定疾病)	その他
		視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	音声・言語・そしやく機能障がい	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺など)	(内臓などの障がい)	身体障がい							
								視覚障がい	聴覚障がい						
全 体	1,751 100.0	59.3	5.7	6.7	1.7	3.2	24.8	17.2	17.9	7.4	17.4	4.2	23.4	3.5	
身体障がい	913 100.0	100.0	11.0	12.9	3.2	6.1	47.6	33.1	11.3	2.7	3.9	5.9	10.7	1.3	
知的障がい	314 100.0	44.9	5.1	3.8	1.6	6.4	25.8	2.2	100.0	17.2	10.8	2.2	4.5	2.5	
発達障がい	129 100.0	36.5	6.2	3.9	3.1	7.0	13.2	3.1	41.9	100.0	30.2	3.1	7.0	-	
精神障がい	305 100.0	16.8	3.0	2.0	1.6	2.0	5.9	2.3	11.1	12.8	100.0	2.3	6.2	2.3	
高次脳機能障がい	74 100.0	108.2	9.5	12.2	12.2	20.3	45.9	8.1	9.5	5.4	9.5	100.0	17.6	-	
難病	409 100.0	30.6	3.9	2.4	2.4	2.4	12.2	7.3	3.4	2.2	4.6	3.2	100.0	0.7	
その他	62 100.0	20.9	-	-	-	3.2	12.9	4.8	12.9	-	11.3	-	4.8	100.0	

【障がい児】

障がい種別は、全体で「知的障がい」が56.0%と最も高く、次いで「発達障がい」が48.5%、「身体障がい」の「肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）」が15.3%となっています。

複数の障がいがあると回答した人で、「身体障がい」、「発達障がい」があると回答した人では、「知的障がい」もある人の割合が高くなっています。「知的障がい」があると回答した人では、「発達障がい」もある人の割合が高くなっています。

サンプル数は30件未満と少ないですが、「精神障がい」、「高次脳機能障がい」があると回答した人でも、「発達障がい」もある人の割合が高い傾向にあります。「難病」があると回答した人では、「身体障がい」もある人の割合が高い傾向にあります。

障がい種別 複数の障がい種別と その内訳	調査数 (n)	(内 訳)							知的障がい	発達障がい	精神障がい	高次脳機能障がい	難病 (特定疾病)	その他
		身体障がい	視覚障がい	聴覚障がい	平衡機能障がい	音声・言語・ そしやく機能障がい	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺など)	内部障がい (内臓などの障がい)						
全 体	359 100.0	32.6	3.9	4.2	0.3	4.2	15.3	4.7	56.0	48.5	7.0	1.4	6.1	5.8
身体障がい	96 100.0	/	14.6	15.6	1.0	15.6	57.3	17.7	44.8	13.5	1.0	1.0	15.6	2.1
知的障がい	201 100.0	29.9	4.0	2.0	0.5	6.5	14.4	2.5	/	43.3	5.5	-	6.0	3.5
発達障がい	174 100.0	10.3	1.1	0.6	0.6	4.0	2.9	1.1	50.0	/	10.3	2.3	2.9	2.3
精神障がい	25 100.0	4.0	-	-	-	-	4.0	-	44.0	72.0	/	-	8.0	8.0
高次脳機能障がい	5 100.0	20.0	-	-	-	-	20.0	-	-	80.0	-	/	-	-
難病	22 100.0	72.7	-	-	-	4.5	50.0	18.2	54.5	22.7	9.1	-	/	-
その他	21 100.0	23.9	4.8	4.8	-	9.5	4.8	-	33.3	19.0	9.5	-	-	/

(2) 障がい手帳の種別

問 あなたがお持ちの手帳の種類と等級はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

【障がい者】

持っている障がい手帳の種別は、全体で「身体障害者手帳」が57.3%と最も高く、次いで「愛の手帳（療育手帳）」が18.9%、「精神障害者保健福祉手帳」が16.6%となっています。一方、「手帳は持っていない」は14.0%となっています。

【障がい児】

持っている障がい手帳の種別は、全体で「愛の手帳（療育手帳）」が56.3%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が24.8%、「精神障害者保健福祉手帳」が13.6%となっています。一方、「手帳は持っていない」は11.4%となっています。

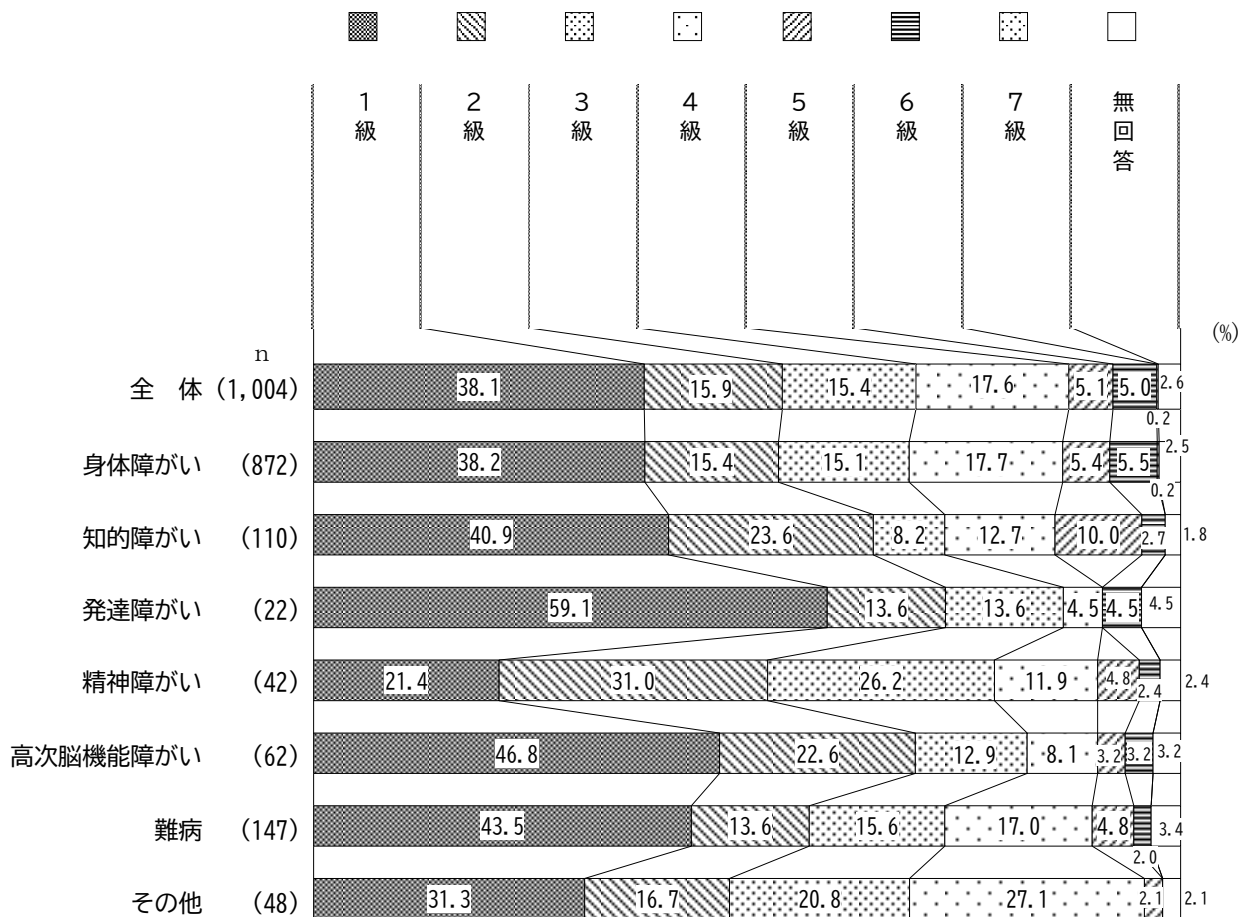
障がい種別	手帳の種別	調査数 (n)					割合 (%)				
		調査数 (n)	身体障害者手帳	愛の手帳 (療育手帳)	精神障害者保健福祉手帳	手帳は持っていない	無回答				
全体		1,751	57.3	18.9	16.6	14.0	1.8				
身体障がい		913	95.5	11.3	3.3	1.6	1.0				
知的障がい		314	35.0	92.7	6.1	0.3	0.6				
発達障がい		129	17.1	47.3	47.3	3.9	0.8				
精神障がい		305	13.8	12.8	80.0	2.0	1.0				
高次脳機能障がい		74	83.8	13.5	17.6	4.1	-				
難病		409	35.9	3.7	3.2	56.0	5.1				
その他		62	77.4	17.7	11.3	8.1	1.6				

障がい種別	手帳の種別	調査数 (n)					割合 (%)				
		調査数 (n)	身体障害者手帳	愛の手帳 (療育手帳)	精神障害者保健福祉手帳	手帳は持っていない	無回答				
全体		359	24.8	56.3	13.6	11.4	0.6				
身体障がい		96	85.4	32.3	1.0	1.0	1.0				
知的障がい		201	17.4	86.6	2.5	4.0	0.5				
発達障がい		174	3.4	58.0	25.3	14.9	1.1				
精神障がい		25	12.0	44.0	48.0	4.0	-				
高次脳機能障がい		5	20.0	40.0	60.0	-	-				
難病		22	72.7	45.5	-	-	-				
その他		21	9.5	47.6	-	47.6	-				

身体障害者手帳の等級

【障がい者】

身体障害者手帳の等級は、全体で「1級」が38.1%と最も高く、次いで「4級」が17.6%、「2級」が15.9%、「3級」が15.4%となっています。



用語の説明

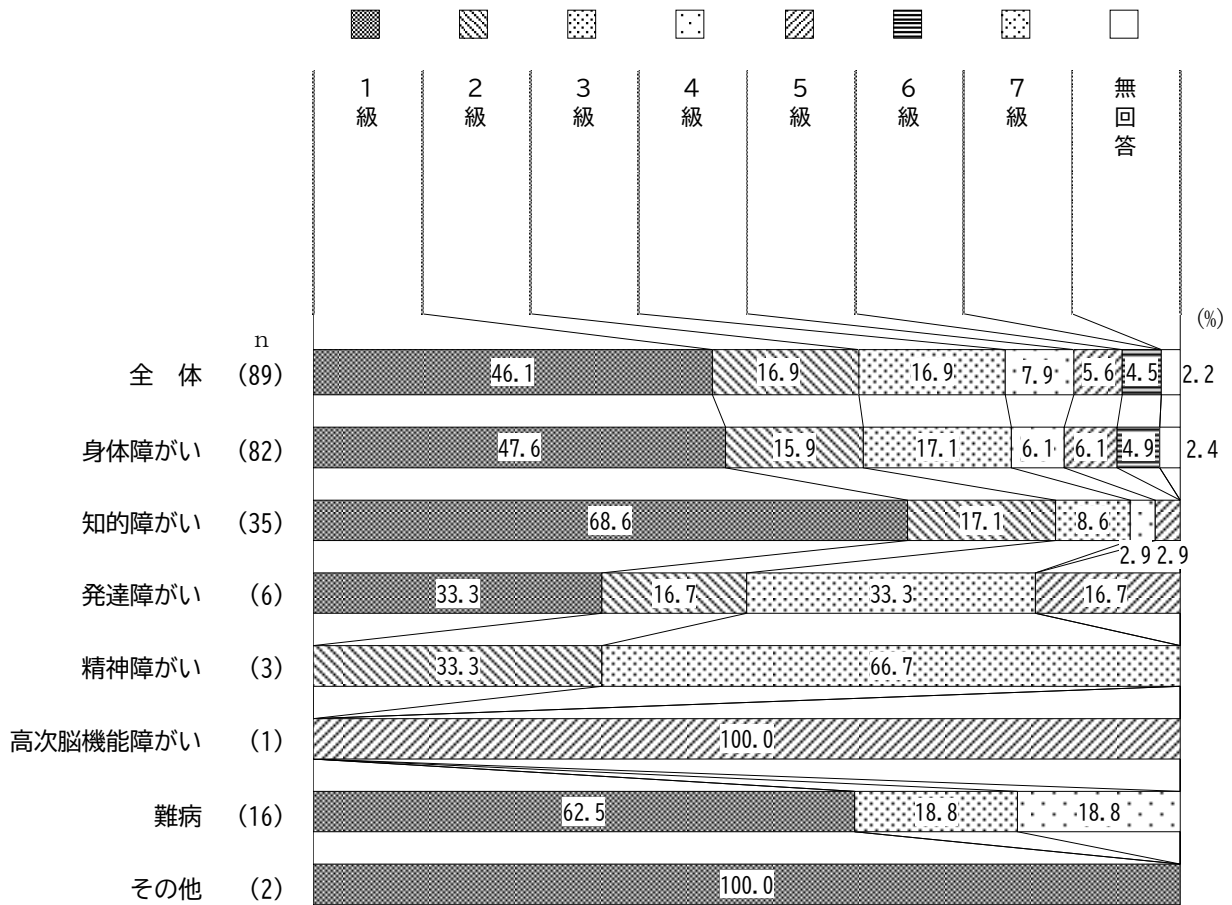
身体障害者手帳

身体上の障がいのある方に交付されるもので、1級から7級の等級に分類されています。等級は、1級に近いほど障がいの程度が重く、7級に近いほど障がいの程度が軽くなります。

身体障害者手帳の等級

【障がい児】

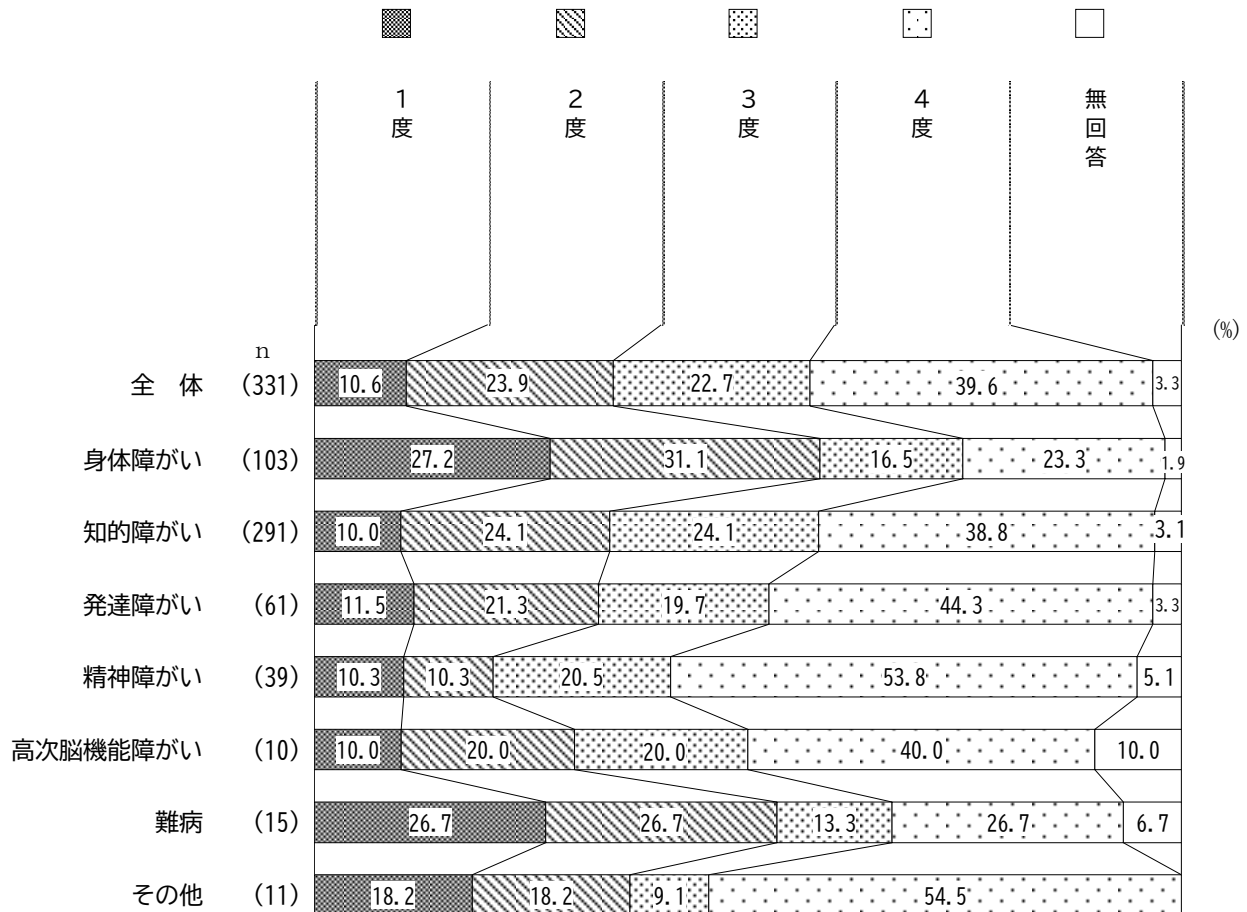
身体障害者手帳の等級は、全体で「1級」が46.1%と最も高く、次いで「2級」と「3級」がともに16.9%となっています。



愛の手帳（療育手帳）の等級

【障がい者】

愛の手帳（療育手帳）の等級は、全体で「4度」が39.6%と最も高く、次いで「2度」が23.9%、「3度」が22.7%となっています。



用語の説明

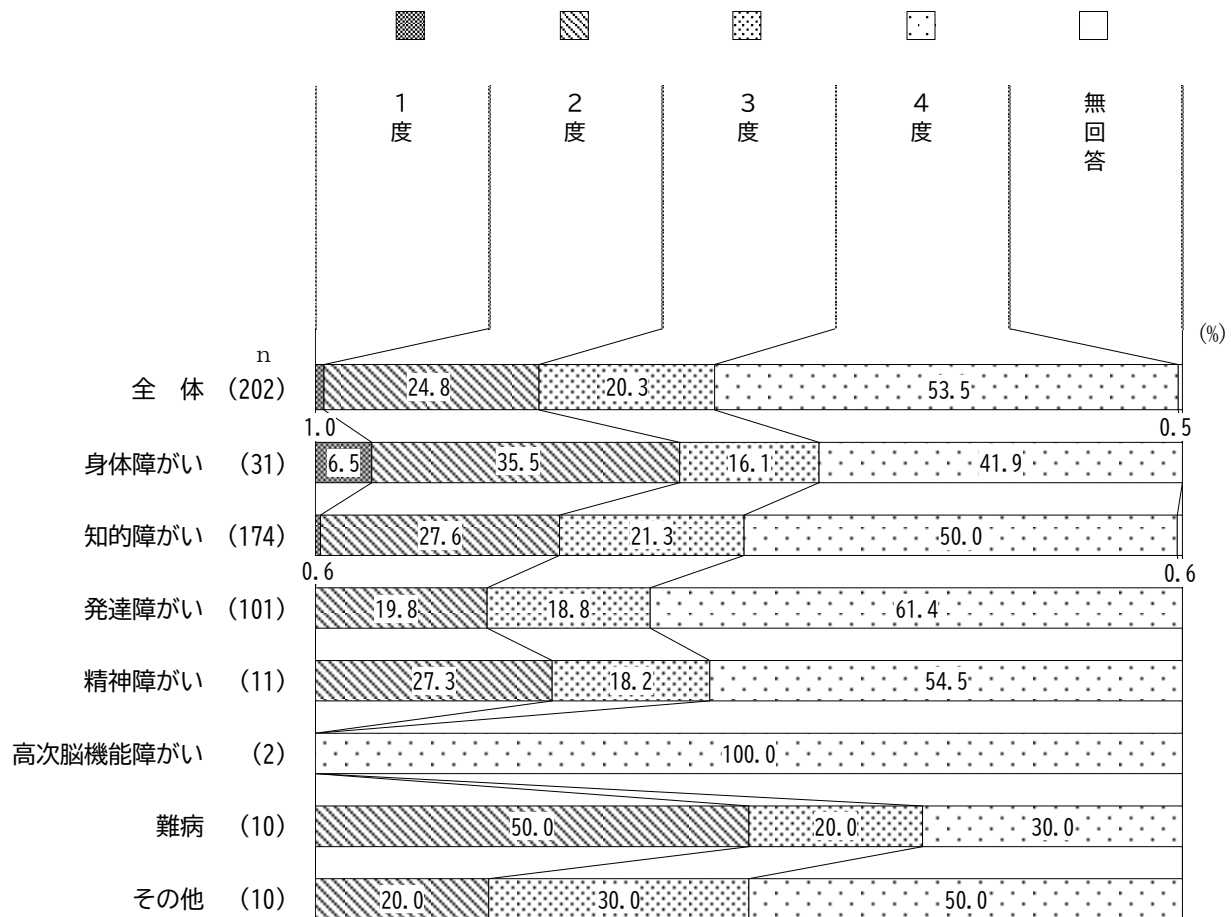
愛の手帳
(療育手帳)

知的障がいのある方に交付されるもので、東京都の判定基準に該当する方に、障がいの程度によって1度から4度の等級に分類されます。等級は、1度に近いほど障がいの程度が重く、4度に近いほど障がいの程度が軽くなります。

愛の手帳（療育手帳）の等級

【障がい児】

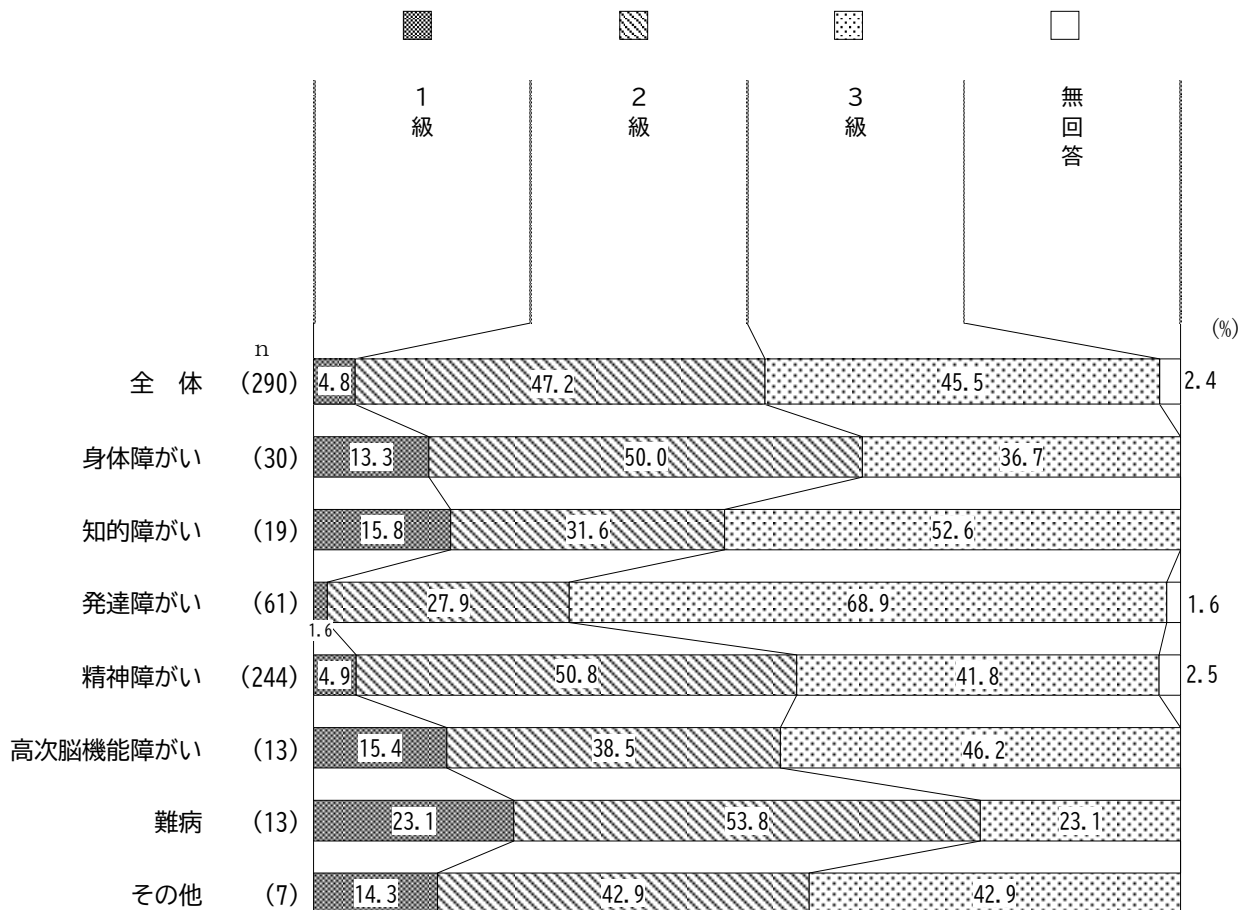
愛の手帳（療育手帳）の等級は、全体で「4度」が53.5%と最も高く、次いで「2度」が24.8%、「3度」が20.3%となっています。



精神障害者保健福祉手帳の等級

【障がい者】

精神障害者保健福祉手帳の等級は、全体で「2級」が47.2%と最も高く、次いで「3級」が45.5%となっています。



用語の説明

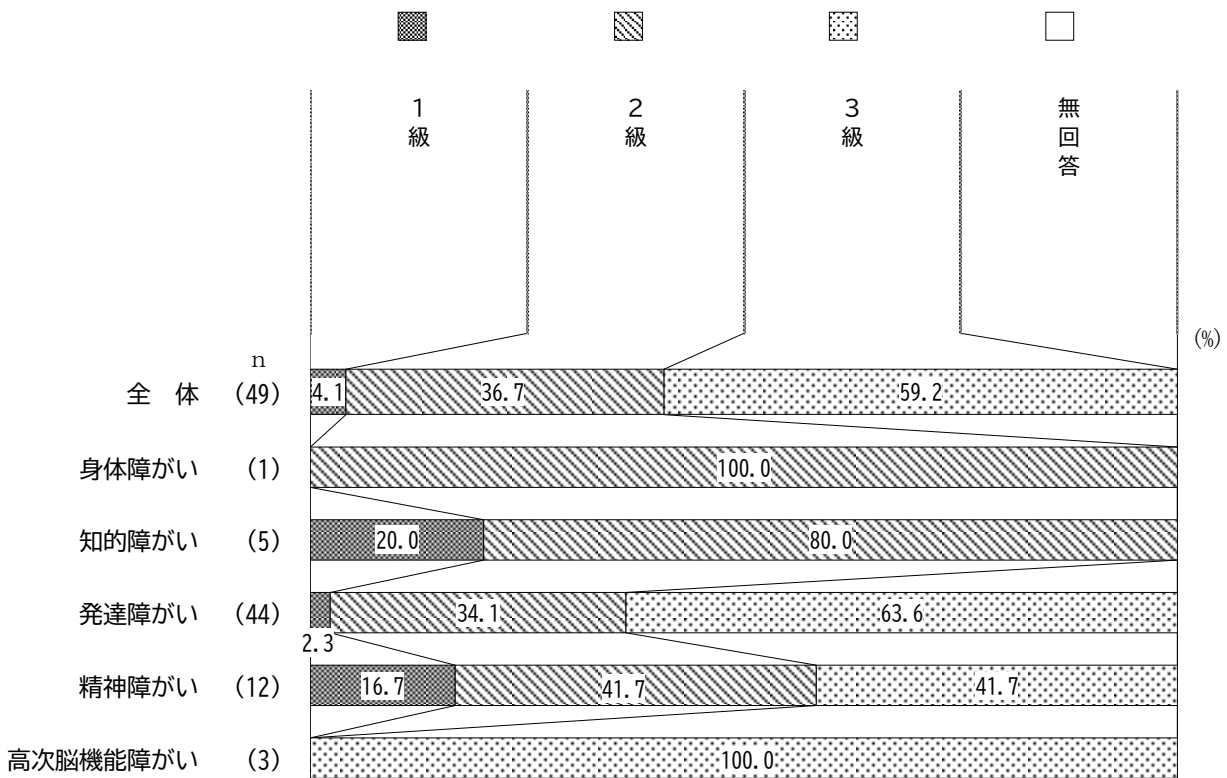
精神障害者
保健福祉手帳

精神障がいのある方に交付されるもので、1級から3級の等級に分類されます。等級は、1級に近いほど障がいの程度が重く、3級に近いほど障がいの程度が軽くなります。

精神障害者保健福祉手帳の等級

【障がい児】

精神障害者保健福祉手帳の等級は、全体で「3級」が59.2%と最も高く、次いで「2級」が36.7%となっています。



「難病」及び「その他」のサンプル数は0件のため非表示

(3) 障がいについての相談のきっかけ

【ご本人が40歳以下で同居されている保護者の方におうかがいします。】

問 保護者をご本人の障がいや発達、行動などについて相談された直接のきっかけは何でしたか。(〇は3つまで)

【障がい者】

障がいについての相談のきっかけは、全体で「子どもを見て違和感を感じたから」が18.1%と最も高く、次いで「医療機関からのアドバイスがあったから」が16.9%となっています。

障がい種別	障がいについての相談のきっかけ	調査数 (n)	(%)									
			兄弟やほかの子どもとの違いを感じたから	子どもを見て違和感を感じたから	健康診査で声をかけられたから	区が作成したハンドブックなどを見たから	医療機関からのアドバイスがあったから	学校の先生からのアドバイスがあったから	幼稚園、保育施設、認定こども園、	障がいに似ている情報を見て子どもと似ていると思ったから	その他	相談していない
全体		497	8.7	18.1	9.3	0.2	16.9	9.1	2.0	10.3	8.7	40.4
身体障がい		236	5.9	14.4	8.9	0.4	20.8	3.0	0.4	15.3	8.9	39.4
知的障がい		167	16.2	28.7	16.8	-	31.7	15.0	4.2	18.0	3.0	9.0
発達障がい		88	13.6	35.2	14.8	-	13.6	21.6	5.7	5.7	2.3	31.8
精神障がい		86	4.7	16.3	1.2	-	11.6	7.0	3.5	8.1	10.5	54.7
高次脳機能障がい		14	7.1	7.1	7.1	-	14.3	7.1	-	21.4	21.4	28.6
難病		90	6.7	13.3	2.2	-	8.9	2.2	2.2	2.2	10.0	64.4
その他		12	8.3	8.3	16.7	-	16.7	8.3	8.3	33.3	-	41.7

【障がい児】

障がいについての相談のきっかけは、全体で「子どもを見て違和感を感じたから」が37.6%と最も高く、次いで「健康診査で声をかけられたから」(25.1%)、「医療機関からのアドバイスがあったから」(22.6%)、「兄弟やほかの子どもとの違いを感じたから」(22.0%)が2割台となっています。

障がい種別	障がいについての相談のきっかけ	調査数 (n)	(%)									
			兄弟やほかの子どもとの違いを感じたから	子どもを見て違和感を感じたから	健康診査で声をかけられたから	区が作成したハンドブックなどを見たから	医療機関からのアドバイスがあったから	学校の先生からのアドバイスがあったから	幼稚園、保育施設、認定こども園、	障がいに関する情報を見て子どもと似ていると思ったから	その他	相談していない
全体		359	22.0	37.6	25.1	0.3	22.6	17.0	8.6	15.9	3.9	4.2
身体障がい		96	10.4	22.9	16.7	1.0	36.5	7.3	5.2	20.8	8.3	7.3
知的障がい		201	24.4	41.3	26.4	-	24.4	15.4	9.0	15.9	4.5	3.0
発達障がい		174	28.7	49.4	32.8	-	16.1	21.8	12.6	9.2	1.1	2.3
精神障がい		25	32.0	48.0	28.0	-	28.0	16.0	4.0	16.0	-	-
高次脳機能障がい		5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	60.0	-	-
難病		22	9.1	27.3	13.6	-	31.8	-	-	27.3	13.6	-
その他		21	-	28.6	33.3	-	23.8	23.8	9.5	19.0	4.8	14.3

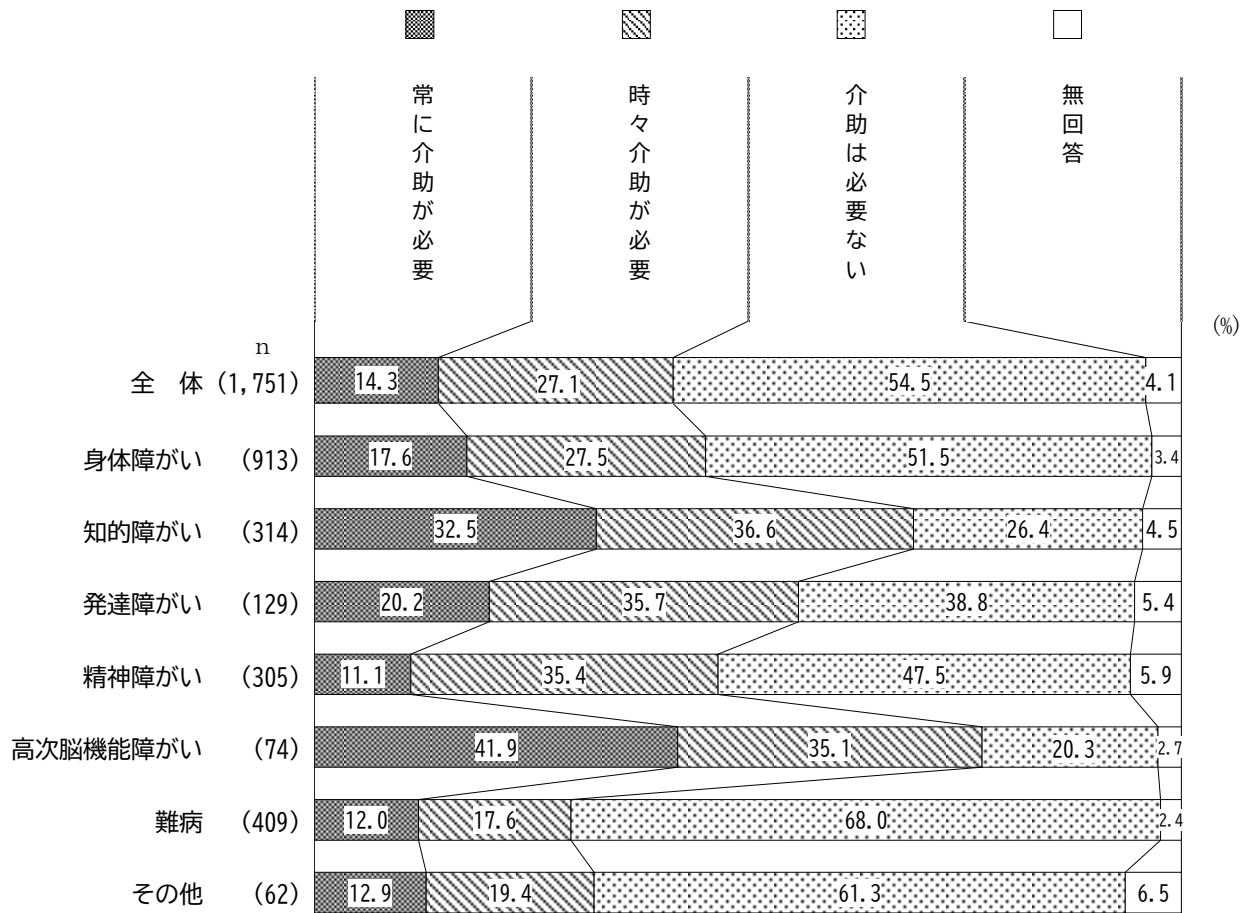
2 介助・支援の状況について

(1) 日常生活での介助・支援の有無

問 あなたは日常生活で介助・支援が必要ですか。(○は1つ)

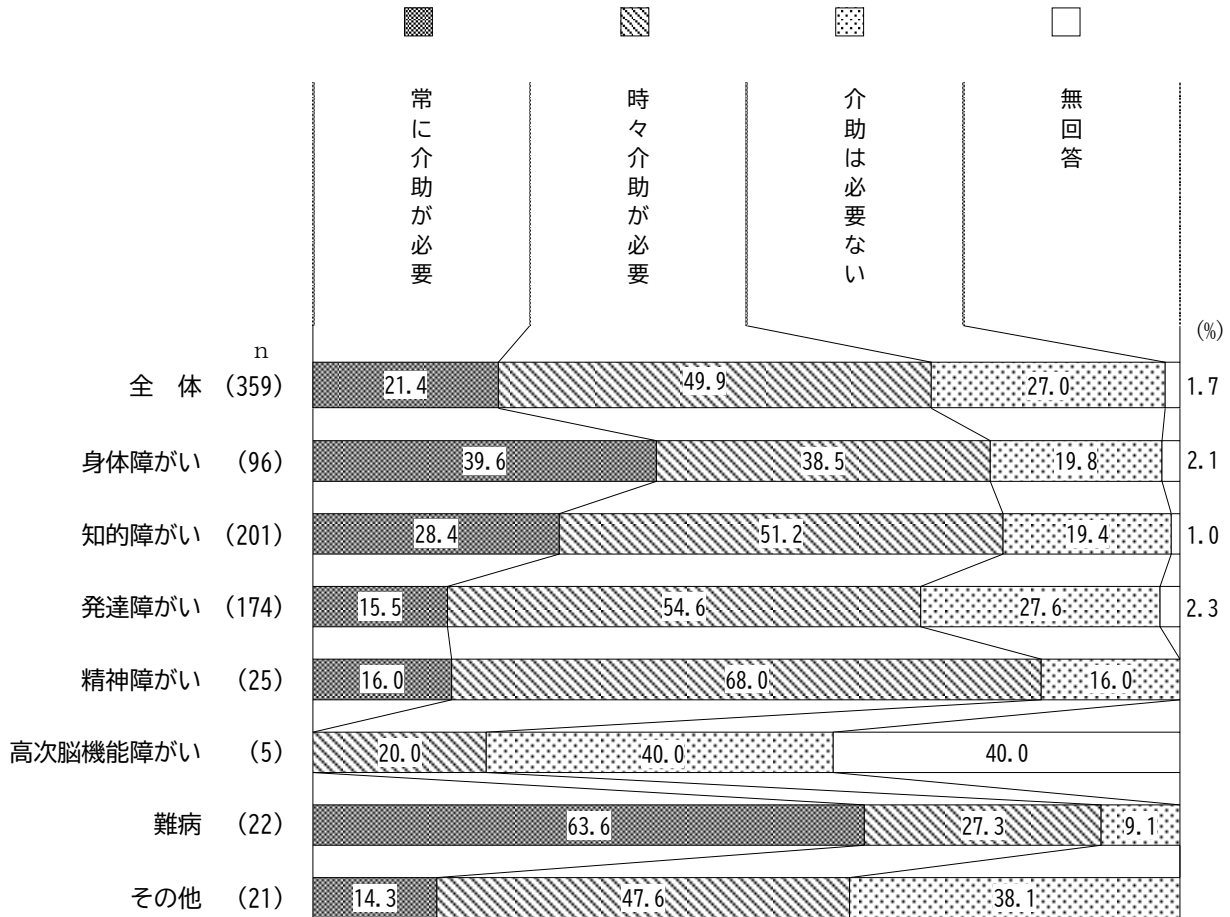
【障がい者】

日常生活での介助・支援は、全体で「介助は必要ない」が54.5%と最も高く、次いで「時々介助が必要」は27.1%、「常に介助が必要」は14.3%となっています。



【障がい児】

日常生活での介助・支援は、全体で「時々介助が必要」が49.9%と最も高く、次いで「介助は必要ない」は27.0%、「常に介助が必要」は21.4%となっています。



3 相談や情報入手の状況について

(1) 悩みや心配事の相談先

問 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、まず相談するところはどこですか。
(○はいくつでも)

【障がい者】

悩みや心配事の相談先は、全体で「家族、親せき」が65.2%と最も高く、次いで「医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）」が45.7%、「友人・知人」が24.4%となっています。

障がい種別	悩みや心配事の相談先	調査数 (n)	相談先 (%)																			
			家族、親せき	友人・知人	医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）	医療機関（専門病院）	幼稚園・保育施設・認定こども園・学校の先生	スクールカウンセラー	教育支援センター・教育相談室	職場の上司・同僚（作業所などを含む）	福祉事務所・健康福祉センター	子ども家庭総合支援センター（児童相談所）	子ども発達支援センター	発達障がい者支援センター（あいポート）	障がい者福祉センター	（身体・知的）障がい者相談員	民生委員・児童委員	障がい者団体・患者団体	その他	相談できるところは特にない	誰かに相談することはまれである	無回答
全体	1751	100.0	65.2	24.4	45.7	10.9	0.9	0.2	0.3	8.1	12.2	0.1	-	1.4	4.6	1.4	0.7	1.4	7.0	5.6	4.7	2.5
身体障がい	913	100.0	64.5	23.4	42.6	10.6	0.8	0.2	0.2	7.0	11.8	-	-	0.2	4.8	1.4	0.8	2.0	5.4	7.1	5.3	3.0
知的障がい	314	100.0	68.2	15.6	40.4	9.2	2.5	0.6	0.6	17.8	18.5	-	-	2.9	7.6	6.1	0.3	3.8	11.1	4.5	3.5	3.2
発達障がい	129	100.0	66.7	27.1	51.9	16.3	3.9	0.8	0.8	12.4	12.4	-	-	16.3	9.3	3.9	1.6	2.3	14.0	0.8	3.9	1.6
精神障がい	305	100.0	56.4	23.0	62.0	18.7	0.7	-	-	6.2	19.0	-	-	1.6	5.2	0.3	1.3	1.0	15.1	2.3	2.6	1.0
高次脳機能障がい	74	100.0	59.5	16.2	48.6	12.2	-	-	-	4.1	14.9	-	-	-	6.8	1.4	-	-	14.9	4.1	4.1	4.1
難病	409	100.0	69.7	30.8	52.1	11.7	0.2	-	0.2	5.9	8.3	0.2	-	-	2.0	-	0.7	0.7	3.7	5.4	4.2	2.0
その他	62	100.0	58.1	24.2	51.6	12.9	-	-	1.6	8.1	12.9	-	-	-	6.5	1.6	-	3.2	8.1	4.8	6.5	3.2

【障がい児】

悩みや心配事の相談先は、全体で「家族、親せき」が78.8%と最も高く、次いで「医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）」(47.1%)、「幼稚園・保育施設・認定こども園・学校の先生」(45.7%)が4割台となっています。

障がい種別	悩みや心配事の相談先	調査数 (n)	相談先 (%)																			
			家族、親せき	友人・知人	医療機関（かかりつけの医師、主治医、ホームドクター）	医療機関（専門病院）	幼稚園・保育施設・認定こども園・学校の先生	スクールカウンセラー	教育支援センター・教育相談室	職場の上司・同僚（作業所などを含む）	福祉事務所・健康福祉センター	子ども家庭総合支援センター（児童相談所）	子ども発達支援センター	発達障がい者支援センター（あいポート）	障がい者福祉センター	（身体・知的）障がい者相談員	民生委員・児童委員	障がい者団体・患者団体	その他	相談できるところは特にない	誰かに相談することはまれである	無回答
全体	359	100.0	78.8	21.7	47.1	16.4	45.7	4.7	3.9	0.6	6.4	2.2	5.6	-	1.7	0.8	-	2.8	10.3	2.8	1.9	2.5
身体障がい	96	100.0	82.3	26.0	61.5	17.7	45.8	4.2	1.0	-	10.4	2.1	1.0	-	3.1	2.1	-	1.0	12.5	-	-	3.1
知的障がい	201	100.0	77.6	23.4	44.3	15.9	48.8	2.0	2.0	-	5.5	2.0	3.5	-	2.5	1.5	-	5.0	12.4	3.5	3.0	2.5
発達障がい	174	100.0	76.4	19.5	46.0	16.7	46.0	6.9	6.3	1.1	5.2	2.9	8.0	-	0.6	0.6	-	1.7	10.9	4.6	1.1	2.9
精神障がい	25	100.0	80.0	12.0	56.0	12.0	24.0	12.0	4.0	4.0	8.0	-	-	-	-	-	-	-	16.0	-	-	-
高次脳機能障がい	5	100.0	60.0	20.0	40.0	-	60.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	-	20.0
難病	22	100.0	77.3	31.8	68.2	18.2	36.4	4.5	-	-	13.6	-	-	-	-	4.5	-	-	31.8	-	-	-
その他	21	100.0	71.4	19.0	38.1	33.3	33.3	-	4.8	-	9.5	-	14.3	-	4.8	-	-	4.8	19.0	9.5	-	-

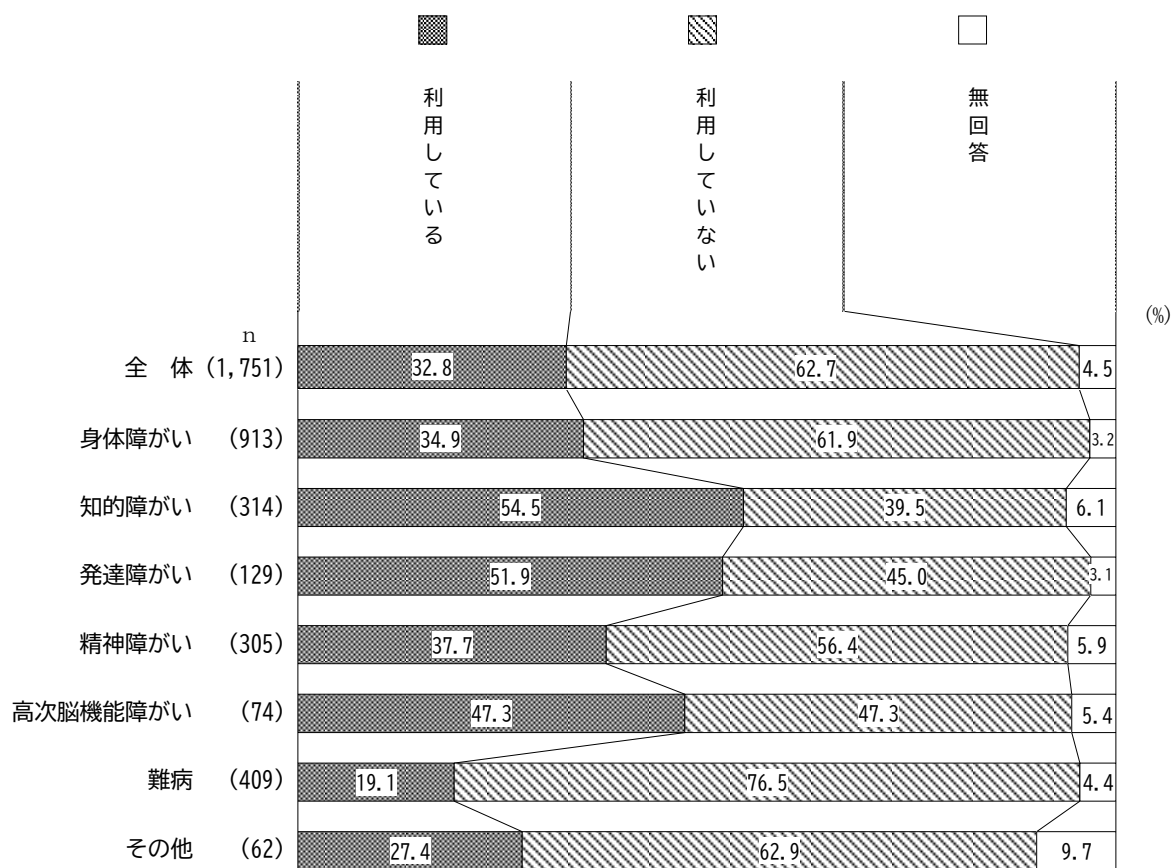
4 障がい福祉サービスについて

(1) 障がい福祉サービスの利用の有無

問 あなたは、障がい福祉サービスを利用していますか。(○は1つ)

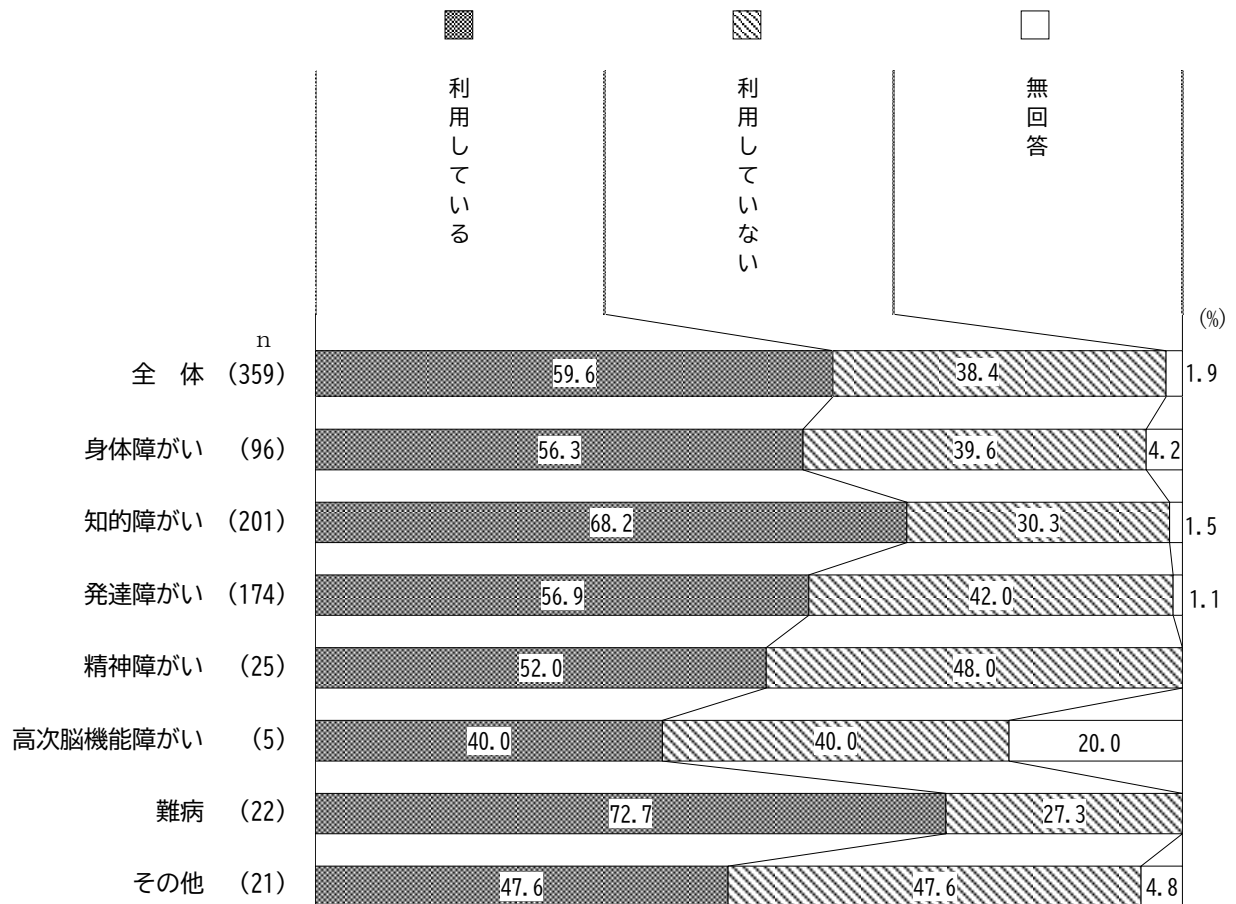
【障がい者】

現在、障がい福祉サービスを全体で「利用している」と答えた人は32.8%、「利用していない」と答えた人は62.7%となっています。



【障がい児】

現在、障がい福祉サービスを全体で「利用している」と答えた人は59.6%、「利用していない」と答えた人は38.4%となっています。



(2) 障がい福祉サービスが必要な状況

【障がい福祉サービスを「利用していない」と答えた方におうかがいします。】

問 どのような状況になったら障がい福祉サービスを利用したい、または必要になると考えていますか。(〇はいくつでも)

【障がい者】

障がい福祉サービスが必要な状況は、全体で「自身の身体状態が変化したら」が68.1%と最も高く、次いで「身近に介助してくれる人がいなくなったら」が31.0%となっています。

障がい種別	障がい福祉サービスが必要な状況	調査数 (n)	状況					無回答 (%)
			自身の身体状態が変化したら	身近に介助してくれる人がいなくなったら	空きたいサービスを使いたいサービス	施設がみつかったら	使いたい事業所やその他	
全体	1,098	100.0	68.1	31.0	2.8	12.9	8.3	5.1
身体障がい	565	100.0	71.2	31.9	3.2	11.2	6.5	4.6
知的障がい	124	100.0	39.5	49.2	5.6	22.6	12.1	8.9
発達障がい	58	100.0	43.1	48.3	5.2	24.1	12.1	6.9
精神障がい	172	100.0	48.8	33.1	3.5	23.3	16.9	5.2
高次脳機能障がい	35	100.0	51.4	31.4	-	11.4	20.0	2.9
難病	313	100.0	82.1	24.9	0.6	7.3	6.7	3.2
その他	39	100.0	64.1	25.6	-	5.1	15.4	12.8

【障がい児】

障がい福祉サービスが必要な状況は、全体で「身近に介助してくれる人がいなくなったら」が40.6%と最も高く、次いで「自身の身体状態が変化したら」(39.9%)が約4割と高くなっています。

障がい種別	障がい福祉サービスが必要な状況	調査数 (n)	状況					無回答 (%)
			自身の身体状態が変化したら	身近に介助してくれる人がいなくなったら	空きたいサービスを使いたいサービス	施設がみつかったら	使いたい事業所やその他	
全体	138	100.0	39.9	40.6	9.4	27.5	12.3	5.1
身体障がい	38	100.0	50.0	42.1	13.2	28.9	5.3	5.3
知的障がい	61	100.0	32.8	49.2	9.8	32.8	18.0	3.3
発達障がい	73	100.0	31.5	38.4	12.3	32.9	13.7	5.5
精神障がい	12	100.0	8.3	41.7	8.3	8.3	33.3	-
高次脳機能障がい	2	100.0	-	50.0	50.0	50.0	-	-
難病	6	100.0	50.0	50.0	-	16.7	16.7	16.7
その他	10	100.0	40.0	10.0	10.0	10.0	20.0	10.0

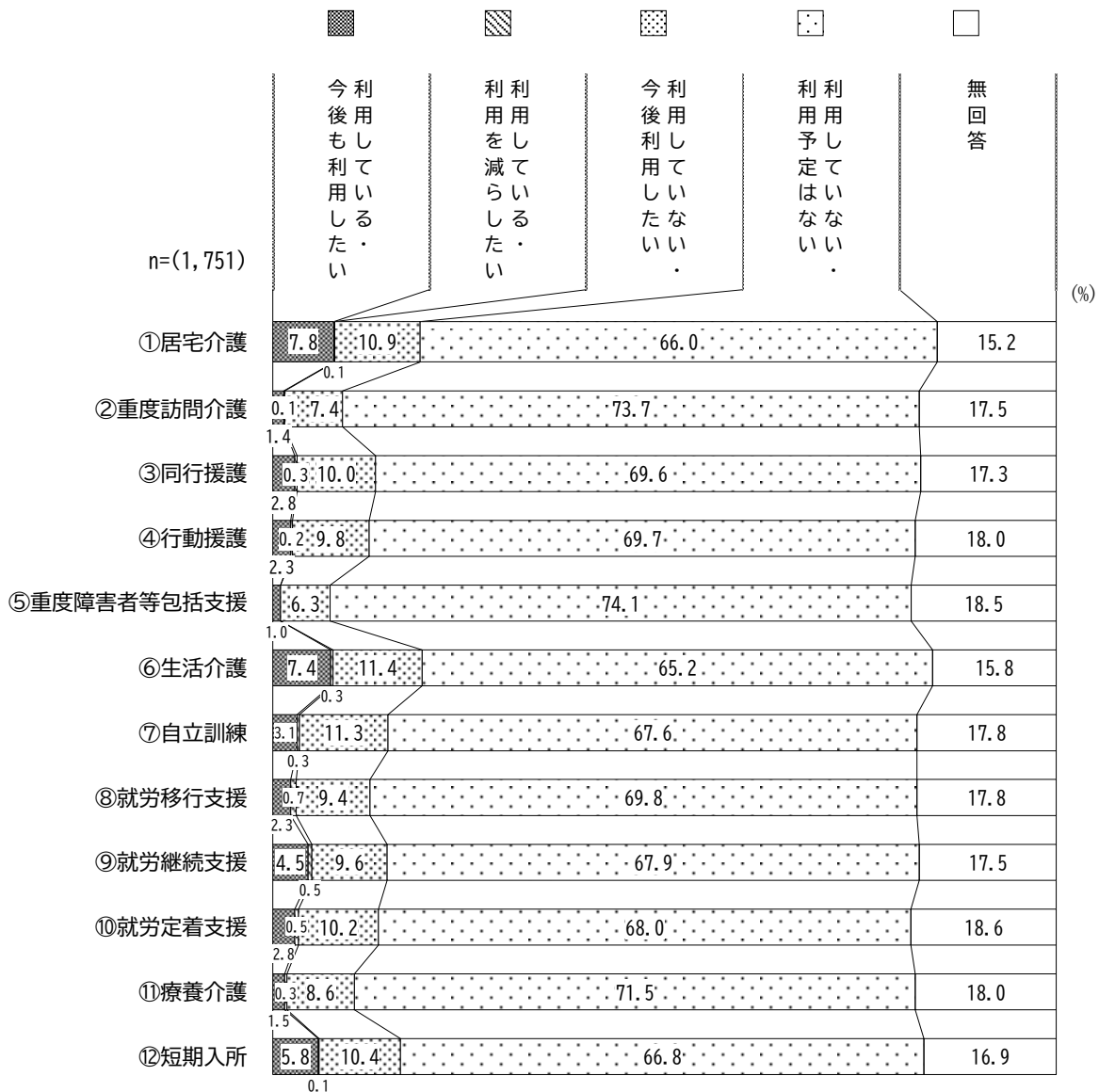
(3) 障がい福祉サービスの利用状況・利用意向

問 あなたは、次のような障がい福祉サービスを利用していますか。また、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。(①～⑫のサービスごとに1つずつお答えください。)

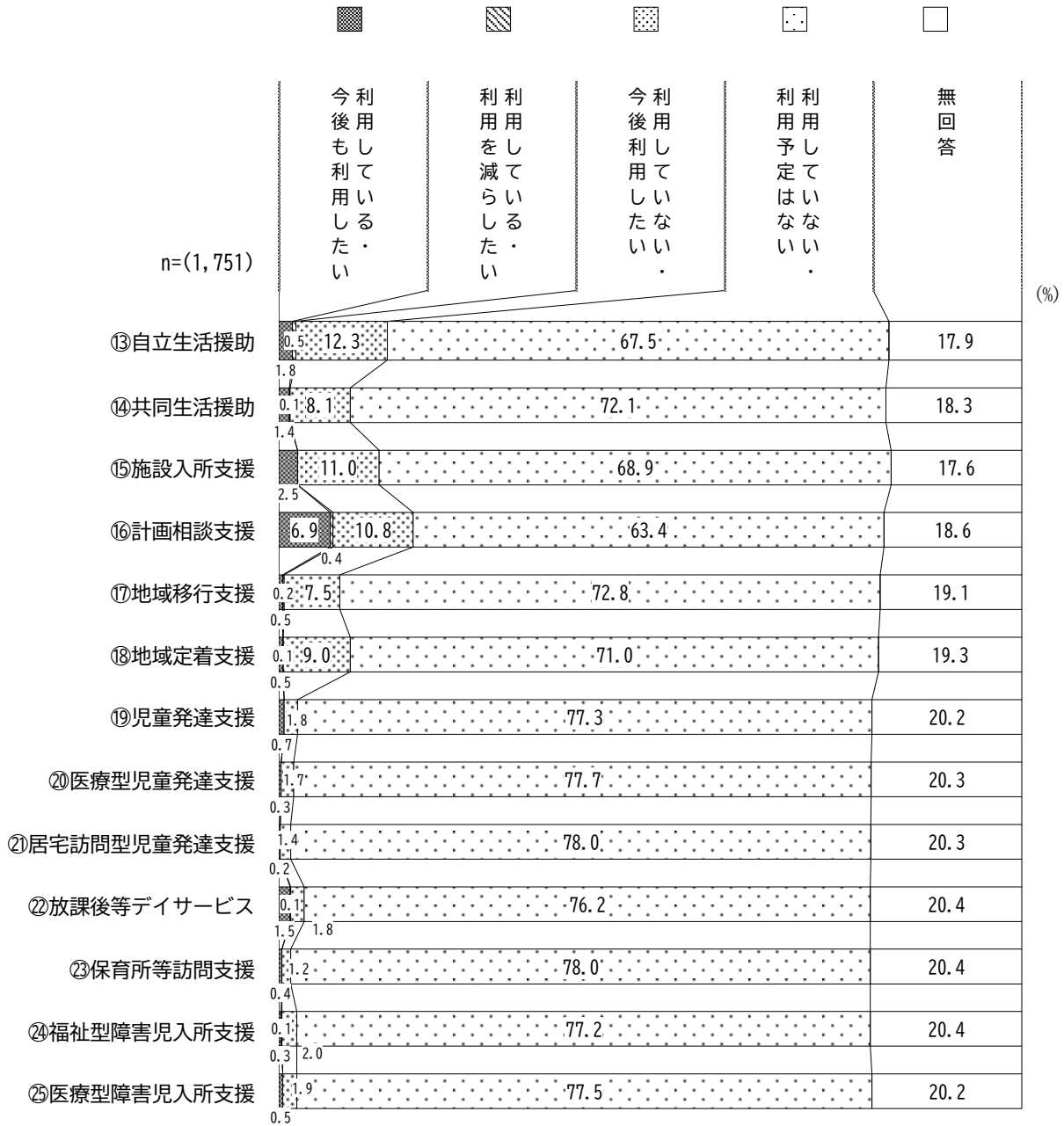
【障がい者①】

障がい福祉サービスの利用状況を見ると、いずれのサービスでも「利用していない・利用予定はない」が6～7割を占めています。

「利用している・今後も利用したい」では①居宅介護（7.8%）、⑥生活介護（7.4%）、⑫計画相談支援（6.9%）が他の障がい福祉サービスよりやや高くなっています。「利用していない・今後利用したい」では⑬自立生活援助が12.3%と最も高く、⑥生活介護（11.4%）、⑦自立訓練（11.3%）、⑮施設入所支援（11.0%）、①居宅介護（10.9%）、⑫計画相談支援（10.8%）、⑭短期入所（10.4%）、⑩就労定着支援（10.2%）、③同行援護（10.0%）が約1割となっています。



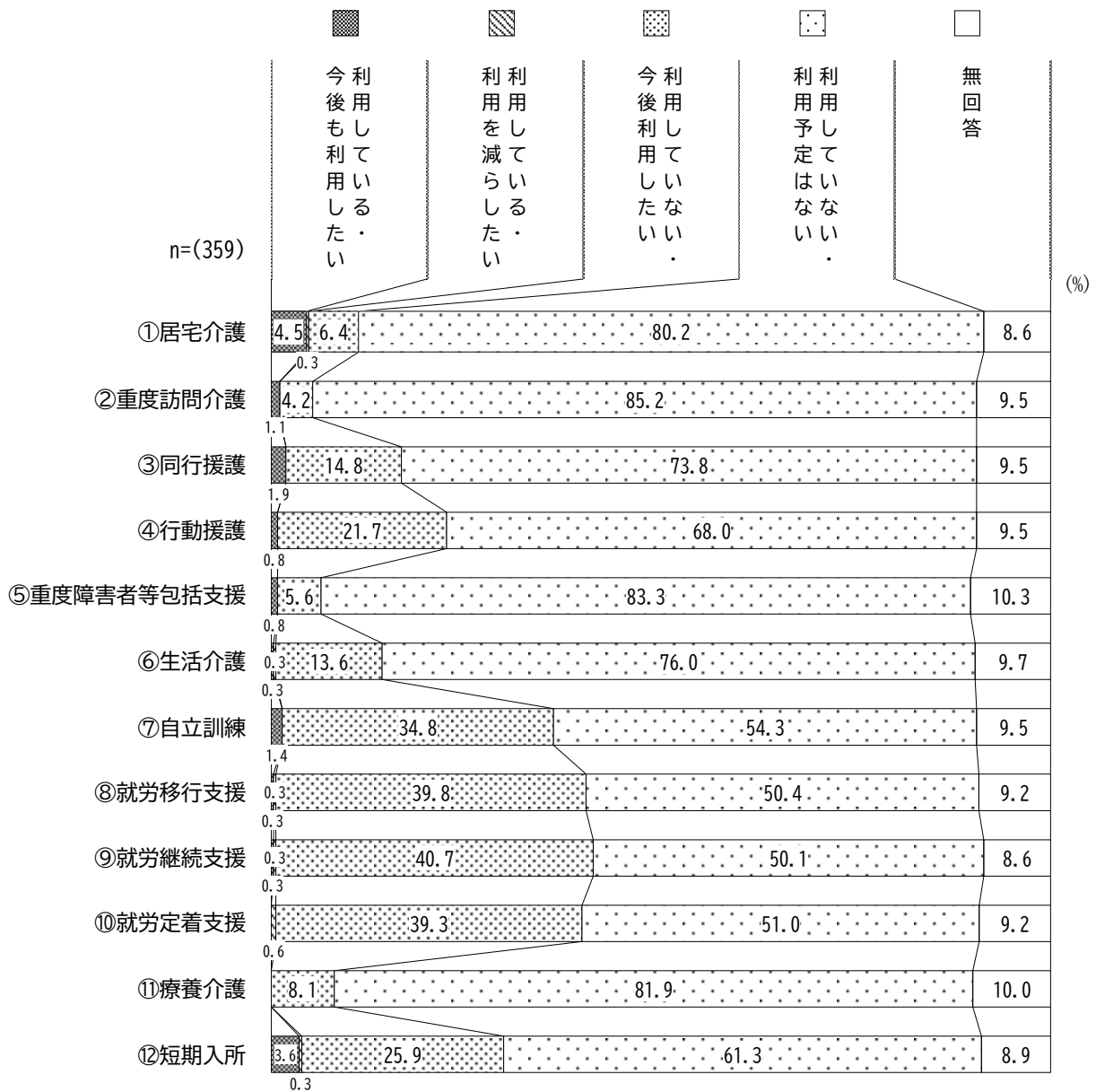
【障がい者②】



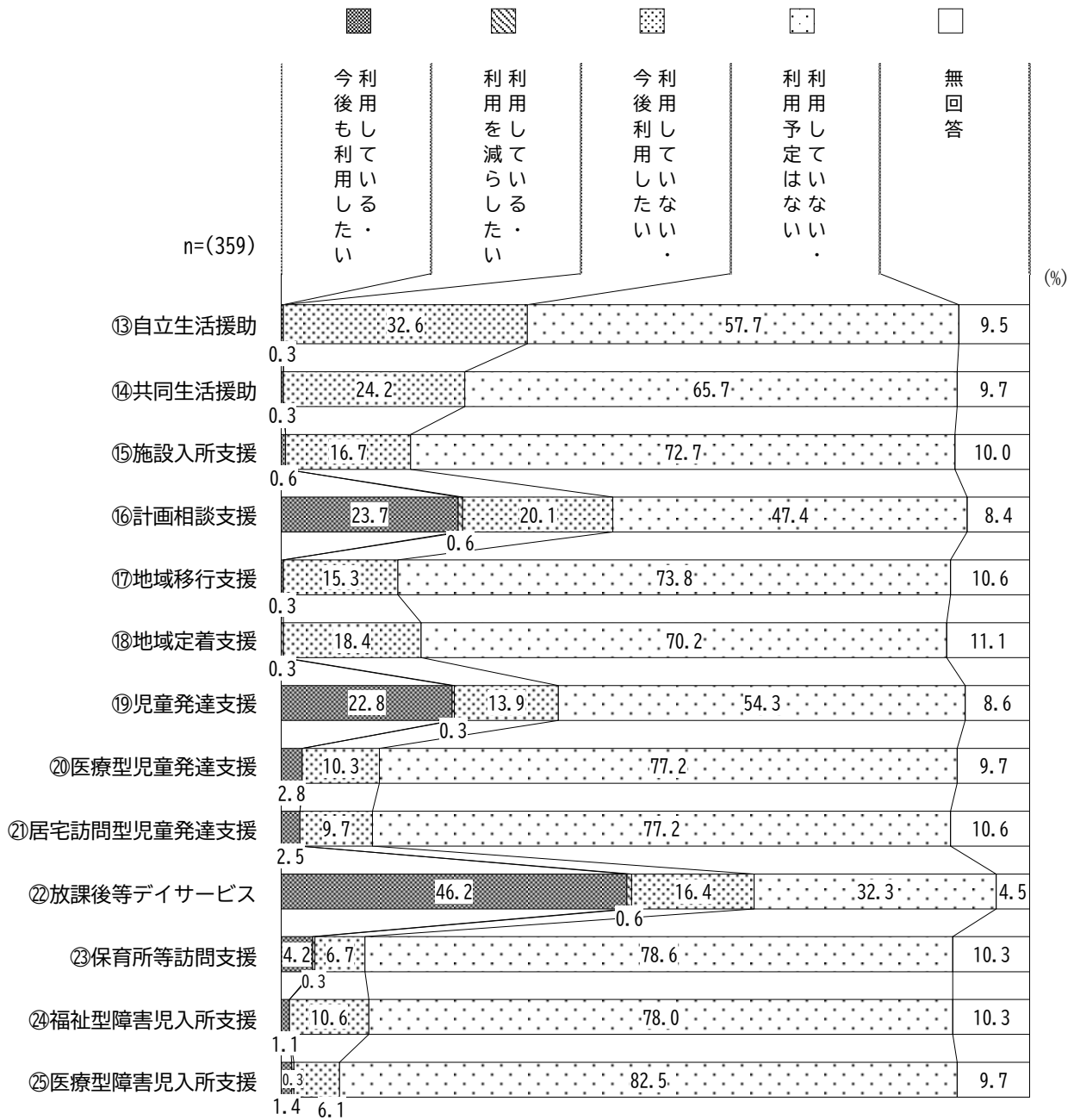
【障がい児①】

障がい福祉サービスの利用状況を見ると、「利用している・今後も利用したい」では⑫放課後等デイサービスが46.2%と最も高く、次いで⑩計画相談支援（23.7%）、⑨児童発達支援（22.8%）が2割台と高くなっています。

「利用していない・今後利用したい」では⑨就労継続支援が40.7%と最も高く、⑧就労移行支援（39.8%）、⑩就労定着支援（39.3%）、⑦自立訓練（34.8%）、⑬自立生活援助（32.6%）が3割台、⑫短期入所（25.9%）、⑭共同生活援助（24.2%）、④行動援護（21.7%）、⑩計画相談支援（20.1%）が2割台となっています。



【障がい児②】



5 日中の過ごし方について

(1) 平日の日中の過ごし方

問 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つ)

【障がい者】

平日の日中の過ごし方は、全体で「自宅にすることが多い」(35.0%)、「働いている」(34.0%)が3割台半ばで高くなっています。

障がい種別	平日の日中の過ごし方 調査数 (n)	(%)											
		福祉施設、作業所などに通っている	病院などのデイケア、リハビリテーションに通っている	働いている	認定こども園に通っている	幼稚園や保育施設、	小学校、中学校、高校 (通常の学級のみ)に通っている	小学校、中学校、高校 (特別支援教室、きこえ・ことばの教室)にも通っている	小学校、中学校、高校 (特別支援学級、特別支援学校)に通っている	大学、専門学校に通っている	入所している施設や病院などで過ごしている	自宅にすることが多い	その他
全 体	1,751 100.0	10.3	5.3	34.0	0.2	0.4	0.2	0.6	1.5	4.2	35.0	3.3	5.1
身体障がい	913 100.0	9.1	5.5	32.4	0.1	0.5	-	0.3	2.5	3.9	35.8	3.6	6.1
知的障がい	314 100.0	44.6	1.3	22.3	-	-	1.0	3.2	-	7.0	14.0	1.0	5.7
発達障がい	129 100.0	24.0	0.8	38.0	1.6	1.6	-	1.6	1.6	4.7	20.2	0.8	5.4
精神障がい	305 100.0	6.6	8.5	25.6	-	-	-	-	0.3	5.2	46.2	3.9	3.6
高次脳機能障がい	74 100.0	10.8	9.5	14.9	-	-	-	-	-	18.9	39.2	2.7	4.1
難病	409 100.0	3.4	5.4	41.3	-	-	-	-	1.0	3.9	38.1	3.7	3.2
その他	62 100.0	11.3	6.5	27.4	-	-	-	-	-	3.2	41.9	6.5	3.2

【障がい児】

平日の日中の過ごし方は、全体で「小学校、中学校、高校（特別支援学級、特別支援学校）に通っている」が過半数となっています。

障がい種別	平日の日中の過ごし方	調査数（n）	（％）											
			福祉施設、作業所などに通っている	病院などのデイケア、リハビリテーションに通っている	働いている	幼稚園や保育施設、認定こども園に通っている	小学校、中学校、高校（通常の学級のみ）に通っている	小学校、中学校、高校（特別支援教室、きこえ・ことばの教室）に通っている	小学校、中学校、高校（特別支援学級、特別支援学校）に通っている	大学、専門学校に通っている	入所している施設や病院などで過ごしている	自宅にすることが多い	その他	無回答
全体		359 100.0	0.8	-	0.6	13.4	14.5	8.4	53.2	-	0.3	5.6	1.7	1.7
身体障がい		96 100.0	1.0	-	1.0	12.5	18.8	4.2	54.2	-	1.0	4.2	-	3.1
知的障がい		201 100.0	-	-	-	7.5	8.0	3.5	78.1	-	-	1.0	0.5	1.5
発達障がい		174 100.0	0.6	-	-	14.9	12.1	13.8	47.1	-	-	6.9	2.9	1.7
精神障がい		25 100.0	-	-	-	4.0	4.0	24.0	36.0	-	-	32.0	-	-
高次脳機能障がい		5 100.0	-	-	-	20.0	20.0	20.0	20.0	-	-	-	-	20.0
難病		22 100.0	-	-	-	-	18.2	4.5	68.2	-	-	9.1	-	-
その他		21 100.0	4.8	-	4.8	47.6	4.8	-	28.6	-	-	9.5	-	-

(2) 園や学校生活での困りごと

【「幼稚園や保育施設、認定こども園に通っている」から「大学、専門学校に通っている」のいずれかを選んだ方におうかがいします。】

問 幼稚園や保育施設、認定こども園、学校などに通っていて困っていることはありますか。
(○はいくつでも)

【障がい者】

園や学校生活での困りごとは、全体で「通うのが大変」と「障がいに対する理解や配慮が引き継がれない」がともに14.0%、「先生の理解や配慮が足りない場合がある」が12.0%となっています。一方、「特に困っていることはない」は68.0%と最も高くなっています。

障がい種別	園や学校生活での困りごと	調査数 (n)	(%)								
			通うのが大変	整っていないトイレなどの施設が	先生の理解や配慮が足りない場合がある	障がいに対する理解や配慮が引き継がれない	障がいに対する理解や配慮が得られにくい	まわりの児童・生徒たちの理解が得られにくい	医療的なケアが受けられない	その他	特に困っていることはない
全体		50	14.0	2.0	12.0	14.0	8.0	2.0	2.0	68.0	2.0
身体障がい		32	12.5	3.1	15.6	18.8	6.3	3.1	3.1	68.8	-
知的障がい		13	15.4	-	-	7.7	-	-	-	76.9	7.7
発達障がい		8	12.5	-	-	12.5	25.0	-	-	62.5	-
精神障がい		1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
高次脳機能障がい		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
難病		4	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	50.0	-
その他		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【障がい児】

園や学校生活での困りごとは、全体で「先生の理解や配慮が足りない場合がある」が23.4%と高く、次いで「障がいに対する理解や配慮が引き継がれない」(18.7%)、「通うのが大変」(18.1%)、「まわりの児童・生徒たちの理解が得られにくい」(15.0%)が1割台となっています。一方、「特に困っていることはない」は47.0%と最も高くなっています。

障がい種別	園や学校生活での困りごと	調査数 (n)	(%)								
			通うのが大変	整っていないトイレなどの施設が	先生の理解や配慮が足りない場合がある	障がいに対する理解や配慮が引き継がれない	障がいに対する理解や配慮が得られにくい	まわりの児童・生徒たちの理解が得られにくい	医療的なケアが受けられない	その他	特に困っていることはない
全体		321	18.1	2.8	23.4	18.7	15.0	0.9	7.5	47.0	5.0
身体障がい		86	22.1	3.5	18.6	14.0	10.5	3.5	5.8	48.8	3.5
知的障がい		195	21.5	3.1	20.0	15.4	11.3	0.5	6.2	49.7	4.6
発達障がい		153	15.7	2.6	32.7	24.2	21.6	-	9.8	42.5	5.2
精神障がい		17	23.5	-	47.1	35.3	29.4	-	17.6	17.6	11.8
高次脳機能障がい		4	-	-	25.0	25.0	75.0	-	25.0	25.0	-
難病		20	30.0	5.0	25.0	15.0	15.0	-	10.0	35.0	5.0
その他		17	-	5.9	23.5	11.8	11.8	-	-	64.7	11.8

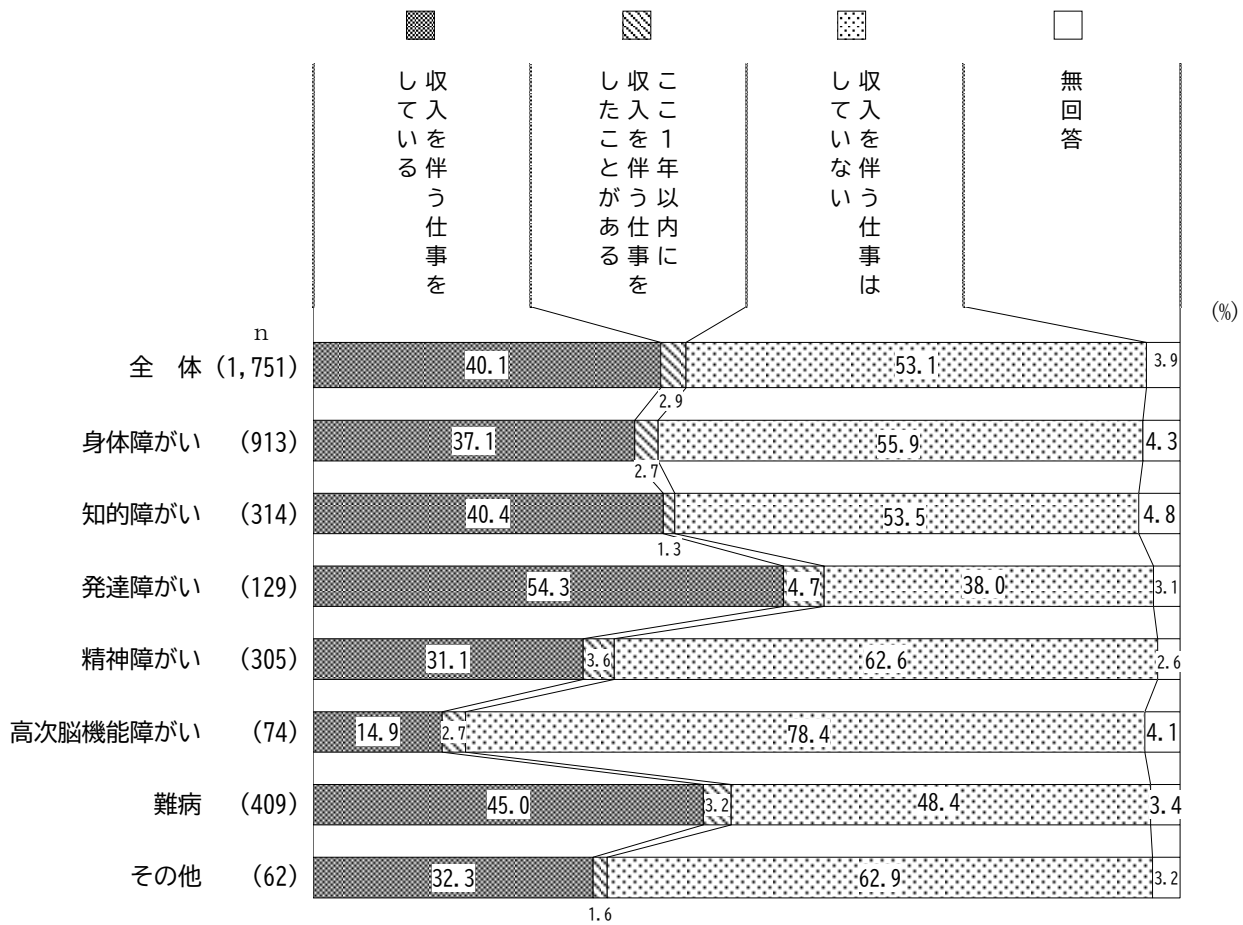
6 就労の状況について

(1) 収入を伴う仕事の状況

問 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

【障がい者】

収入を伴う仕事の状況は、全体で「収入を伴う仕事はしていない」が53.1%と最も高く、次いで「収入を伴う仕事をしている」は40.1%、「ここ1年以内に収入を伴う仕事をしたことがある」は2.9%となっています。



(2) 仕事上での困りごと

【「収入を伴う仕事をしている」又は「ここ1年以内に収入を伴う仕事をしたことがある」と答えた方におうかがいします。】

問 仕事をする上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

【障がい者】

仕事上での困りごとは、全体で「給与・工賃などの収入が少ない」が31.1%と高く、次いで「職場の人間関係」が19.3%、「通勤が大変」が15.8%となっています。一方、「特に困っていることはない」が38.1%と最も高くなっています。

仕事上での困りごと 障がい種別	調査数 (n)	(%)										
		給与・工賃などの収入が少ない	勤務時間、日数が多く体力的に不安	通勤が大変	業務内容が合わない	職場の人間関係	職場の設備が障がいに対応していない	障がいに対する職場の理解不足	職場外で相談相手がいない	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	753 100.0	31.1	13.0	15.8	5.6	19.3	5.6	13.7	5.4	4.2	38.1	2.4
身体障がい	364 100.0	27.5	11.8	16.2	4.9	13.2	6.9	14.3	5.2	3.6	42.6	2.5
知的障がい	131 100.0	41.2	6.1	13.7	8.4	30.5	3.8	9.2	8.4	1.5	33.6	3.1
発達障がい	76 100.0	36.8	9.2	17.1	13.2	34.2	7.9	17.1	6.6	7.9	21.1	3.9
精神障がい	106 100.0	43.4	17.9	19.8	11.3	30.2	6.6	24.5	10.4	9.4	17.0	2.8
高次脳機能障がい	13 100.0	23.1	-	30.8	7.7	15.4	7.7	15.4	15.4	7.7	46.2	-
難病	197 100.0	23.4	19.8	15.7	3.0	16.2	6.1	12.7	3.6	4.1	42.6	2.5
その他	21 100.0	19.0	19.0	23.8	4.8	14.3	4.8	9.5	-	14.3	38.1	4.8

7 外出や余暇の過ごし方について

(1) 外出する目的

問 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(○は1つ)

【障がい者】

外出する目的は、全体で「通勤・通学・通所」が31.2%と最も高く、次いで「医療機関への受診」(19.4%)、「買い物に行く」(19.3%)が約2割となっています。

障がい種別	外出する目的	調査数 (n)	(%)										
			通勤・通学・通所	行訓練 やリハビリに	医療機関への受診	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	参加する グループ活動に	散歩に行く	ボランティア活動	その他	無回答
全体		1,751 100.0	31.2	2.3	19.4	19.3	1.4	3.1	0.3	6.7	0.3	1.9	14.0
身体障がい		913 100.0	30.7	3.1	22.1	18.9	1.4	2.2	0.1	6.7	0.4	2.1	12.3
知的障がい		314 100.0	41.7	0.6	12.4	11.8	-	3.2	1.0	7.6	-	1.3	20.4
発達障がい		129 100.0	41.1	0.8	13.2	12.4	1.6	2.3	-	3.1	0.8	3.1	21.7
精神障がい		305 100.0	21.0	1.3	21.6	21.3	1.6	4.3	0.7	7.9	-	3.0	17.4
高次脳機能障がい		74 100.0	13.5	9.5	16.2	17.6	1.4	2.7	-	14.9	-	8.1	16.2
難病		409 100.0	32.8	2.0	19.6	19.1	1.0	3.2	-	4.4	0.2	2.0	15.9
その他		62 100.0	27.4	1.6	27.4	22.6	-	-	1.6	4.8	1.6	1.6	11.3

【障がい児】

外出する目的は、全体で「通勤・通学・通所」が74.7%を占めています。

障がい種別	外出する目的	調査数 (n)	(%)										
			通勤・通学・通所	行訓練 やリハビリに	医療機関への受診	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	参加する グループ活動に	散歩に行く	ボランティア活動	その他	無回答
全体		359 100.0	74.7	0.6	2.2	3.9	0.8	1.4	-	2.8	-	1.1	12.5
身体障がい		96 100.0	72.9	1.0	4.2	3.1	1.0	-	-	5.2	-	-	12.5
知的障がい		201 100.0	76.1	-	2.0	3.5	0.5	2.0	-	3.0	-	-	12.9
発達障がい		174 100.0	75.3	0.6	2.3	4.0	1.1	1.1	-	2.9	-	1.1	11.5
精神障がい		25 100.0	60.0	-	4.0	12.0	-	4.0	-	4.0	-	4.0	12.0
高次脳機能障がい		5 100.0	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0
難病		22 100.0	72.7	4.5	9.1	-	-	-	-	-	-	-	13.6
その他		21 100.0	61.9	-	4.8	-	-	-	-	14.3	-	4.8	14.3

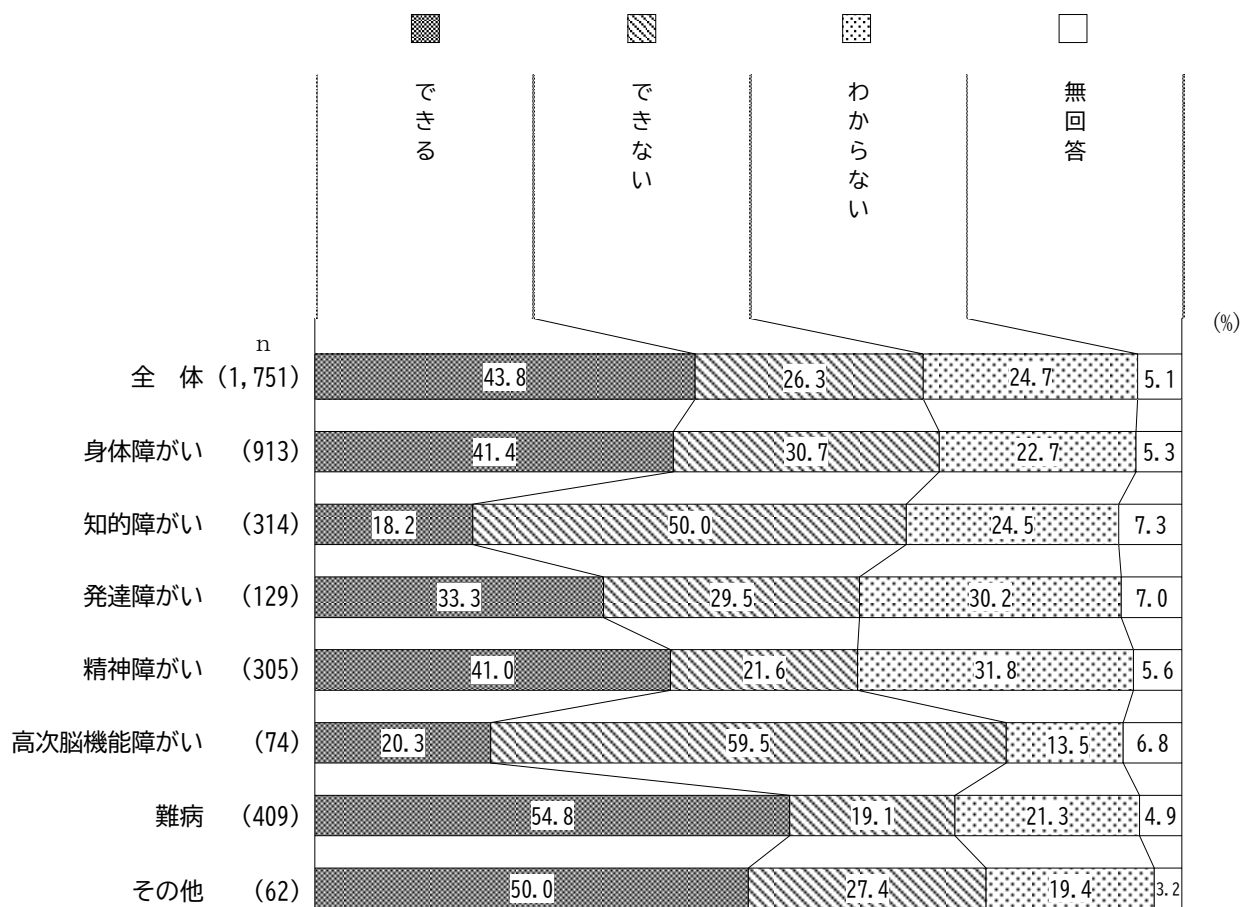
8 災害時の避難などについて

(1) 災害時に一人での避難の可否

問 あなたは、火事や地震などの災害時に一人で避難できますか。(○は1つ)

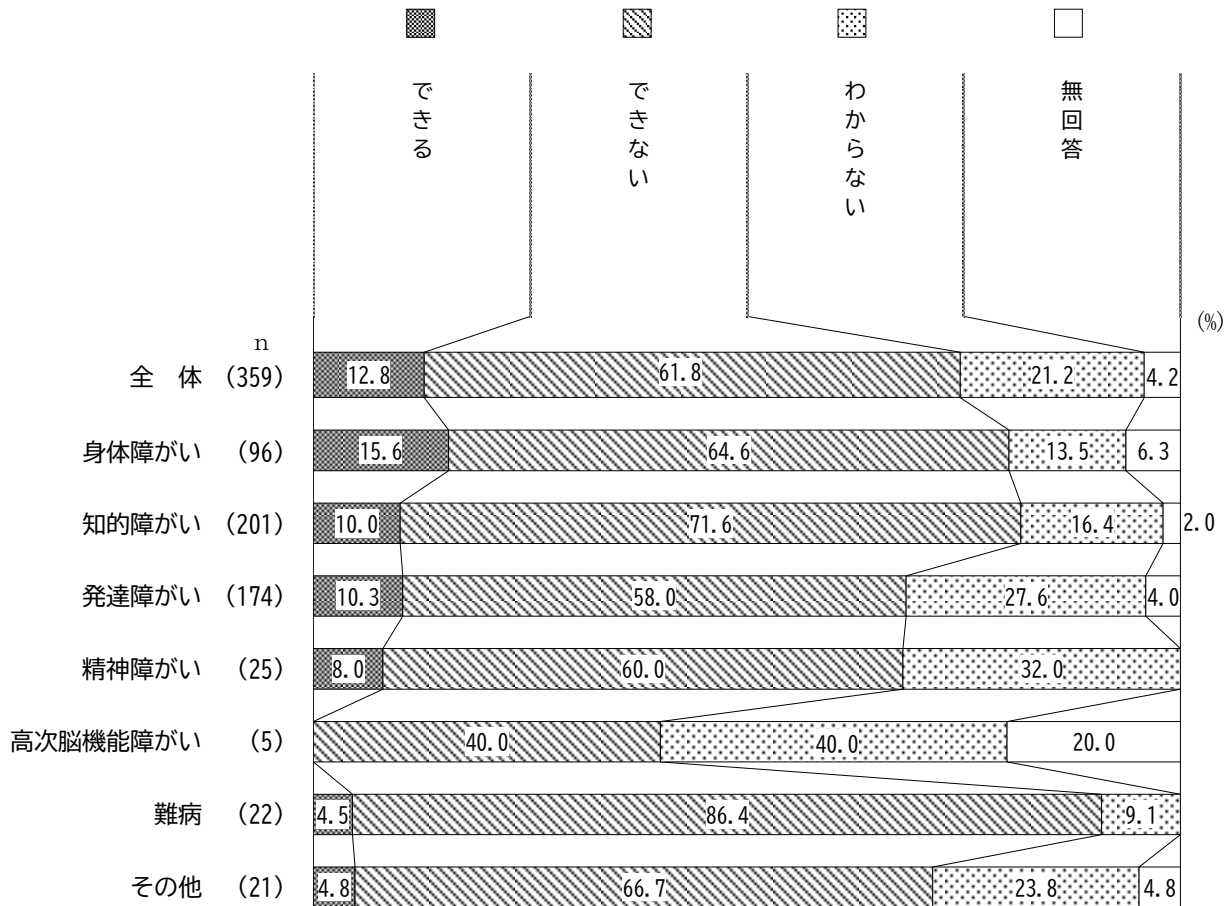
【障がい者】

災害時に一人での避難は、全体で「できる」と答えた人が43.8%、「できない」と答えた人は26.3%、「わからない」と答えた人は24.7%となっています。



【障がい児】

災害時に一人での避難は、全体で「できる」と答えた人は12.8%にとどまり、「できない」と答えた人は61.8%、「わからない」と答えた人は21.2%となっています。



(2) 災害時の困りごと

問 火事や地震などの災害時に困ることは何ですか。(〇はいくつでも)

【障がい者】

災害時に困ることは、全体で「投薬や治療が受けられない」が50.0%と最も高く、次いで「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」が44.8%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が37.3%となっています。

障がい種別	災害時の困りごと	調査数 (n)	(%)										
			投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる	補装具や日常生活用具の入手ができない	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に避難することができない	被害状況、避難場所などの情報が入手できない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安	その他	特になし	無回答
全 体		1,751 100.0	50.0	7.5	9.4	18.1	37.3	19.4	18.0	44.8	5.0	11.5	6.5
身体障がい		913 100.0	47.4	11.3	12.7	18.2	44.5	19.9	14.6	47.6	5.8	10.5	6.2
知的障がい		314 100.0	34.1	5.7	8.6	39.8	51.3	30.9	41.7	48.1	7.6	8.0	8.3
発達障がい		129 100.0	44.2	5.4	9.3	35.7	34.9	19.4	45.7	49.6	6.2	9.3	6.2
精神障がい		305 100.0	61.0	3.0	6.6	16.4	28.9	20.7	24.3	46.2	4.9	11.1	7.9
高次脳機能障がい		74 100.0	41.9	20.3	17.6	28.4	51.4	21.6	14.9	43.2	5.4	6.8	10.8
難病		409 100.0	67.0	6.1	7.8	11.7	30.8	11.7	7.3	47.9	5.1	9.0	5.6
その他		62 100.0	45.2	8.1	12.9	17.7	38.7	17.7	16.1	41.9	4.8	14.5	8.1

【障がい児】

災害時に困ることは、全体で「安全なところまで、迅速に避難することができない」（58.8%）、「周囲とコミュニケーションがとれない」（54.6%）が5割台と高く、次いで「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」（49.3%）、「救助を求めることができない」（42.1%）、「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」（40.9%）が4割台となっています。

障がい種別	調査数（n）	（%）										
		災害時の困りごと	投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる	補装具や日常生活用具の入手が できなくなる	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に 避難することができない	被害状況、避難場所などの 情報が入手できない	周囲とコミュニケーションが とれない	避難場所の設備（トイレなど）や 生活環境が不安	その他	特 に な い
全 体	359 100.0	28.1	6.4	9.7	42.1	58.8	40.9	54.6	49.3	8.6	6.1	4.5
身体障がい	96 100.0	44.8	13.5	26.0	41.7	63.5	34.4	38.5	52.1	8.3	4.2	6.3
知的障がい	201 100.0	30.8	6.0	10.0	51.7	70.1	47.8	65.7	58.2	9.0	6.5	2.0
発達障がい	174 100.0	25.3	2.3	5.2	44.3	59.8	49.4	63.2	52.3	7.5	5.7	4.6
精神障がい	25 100.0	44.0	4.0	4.0	52.0	60.0	48.0	56.0	64.0	8.0	-	-
高次脳機能障がい	5 100.0	40.0	-	-	20.0	40.0	20.0	40.0	-	20.0	-	20.0
難病	22 100.0	77.3	18.2	36.4	50.0	81.8	40.9	59.1	77.3	13.6	-	-
その他	21 100.0	28.6	4.8	4.8	28.6	38.1	38.1	42.9	38.1	19.0	14.3	4.8

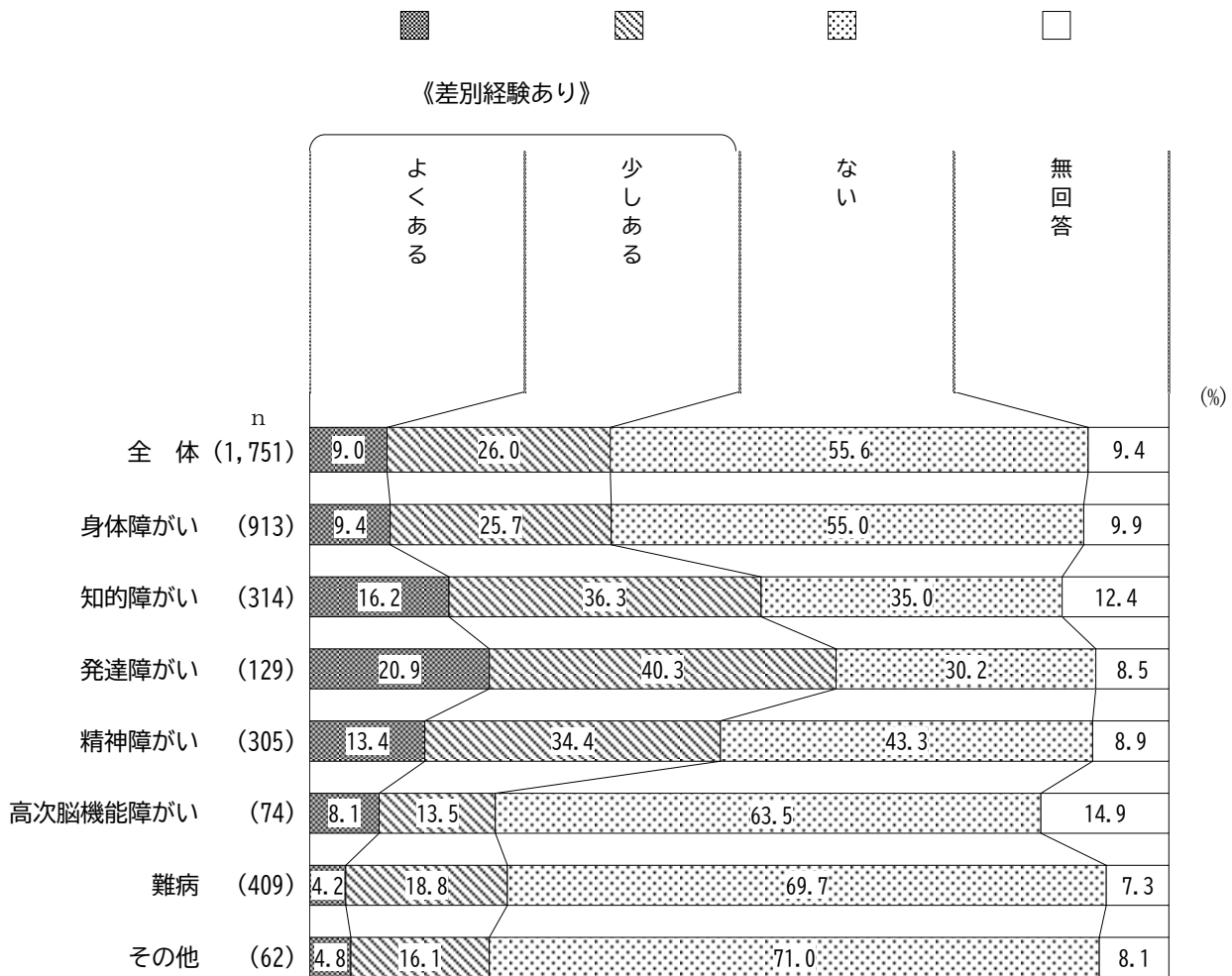
9 差別や権利擁護などについて

(1) 障がい者差別の経験

問 障がいがあることで、差別を感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。(○は1つ)

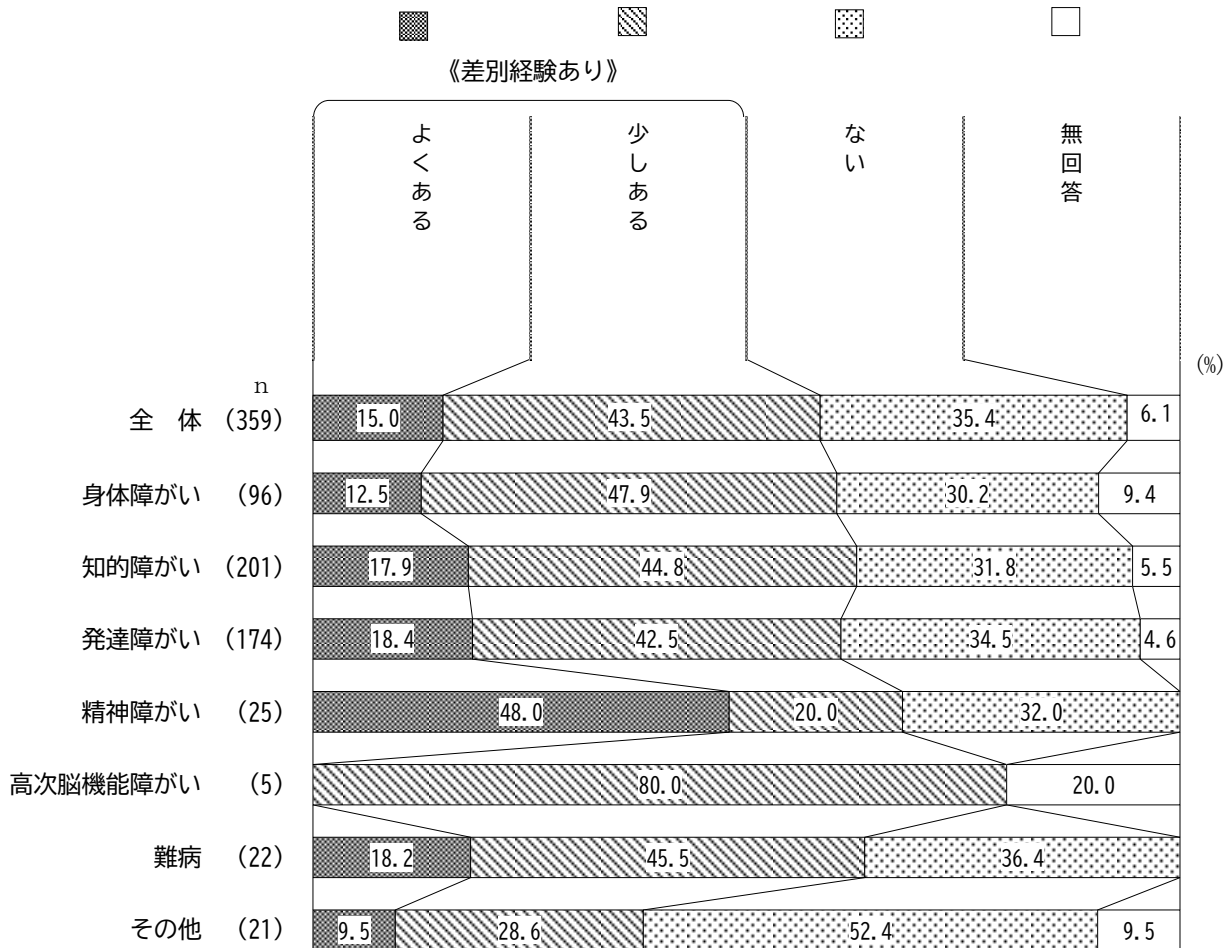
【障がい者】

障がい者差別の経験は、全体で「よくある」(9.0%)、「少しある」(26.0%)を合わせた「差別経験あり」は35.0%となっています。一方、障がい者差別の経験が「ない」と答えた人は55.6%となっています。



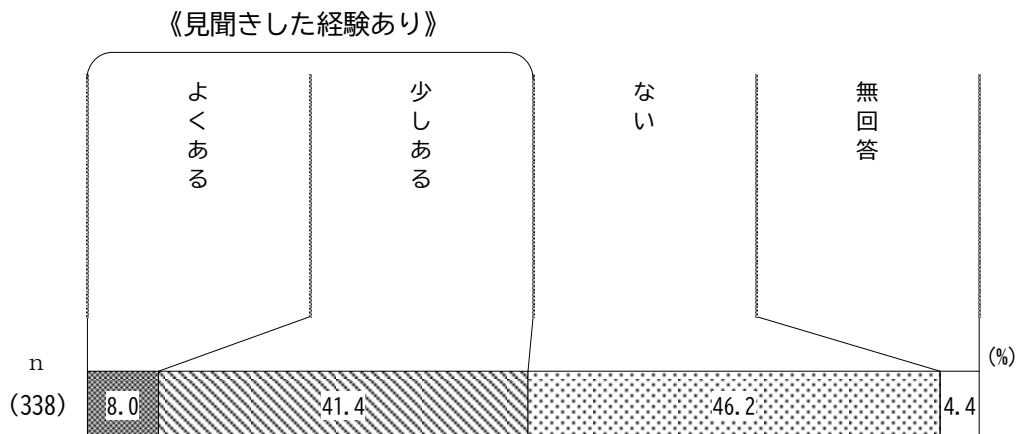
【障がい児】

障がい者差別の経験は、全体で「よくある」(15.0%)、「少しある」(43.5%)を合わせた「差別経験あり」は58.5%となっています。一方、障がい者差別の経験が「ない」と答えた人は35.4%となっています。



【一般区民】

差別や偏見を見聞きした経験が「よくある」(8.0%)、「少しある」(41.4%)を合わせた「見聞きした経験あり」は49.4%となっています。一方、見聞きの経験が「ない」と答えた人は46.2%となっています。

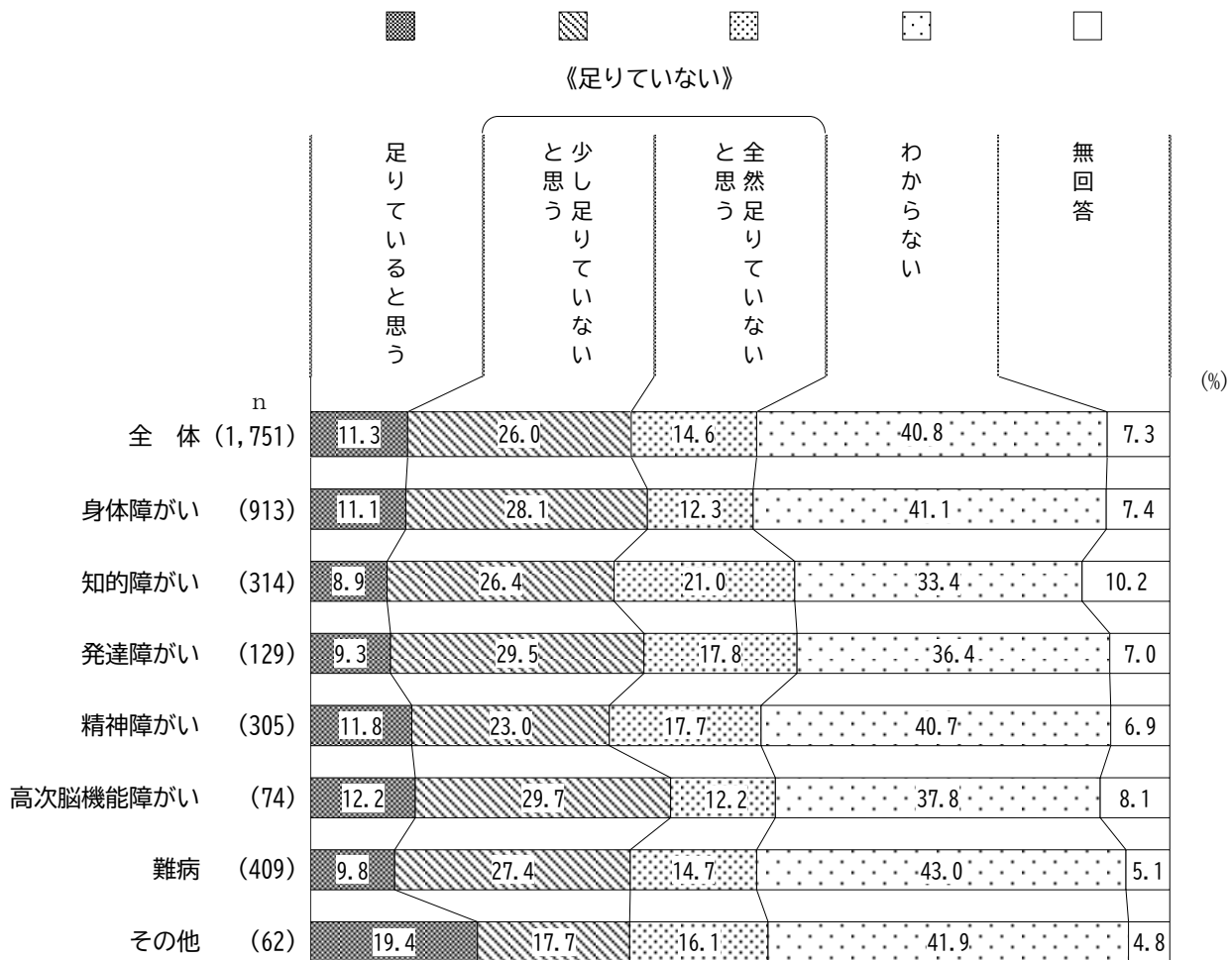


(2) 障がいのある人への区民の対応や理解度

問 あなたは、区民の、障がいのある人への対応や理解が足りていると思いますか。
(○は1つ)

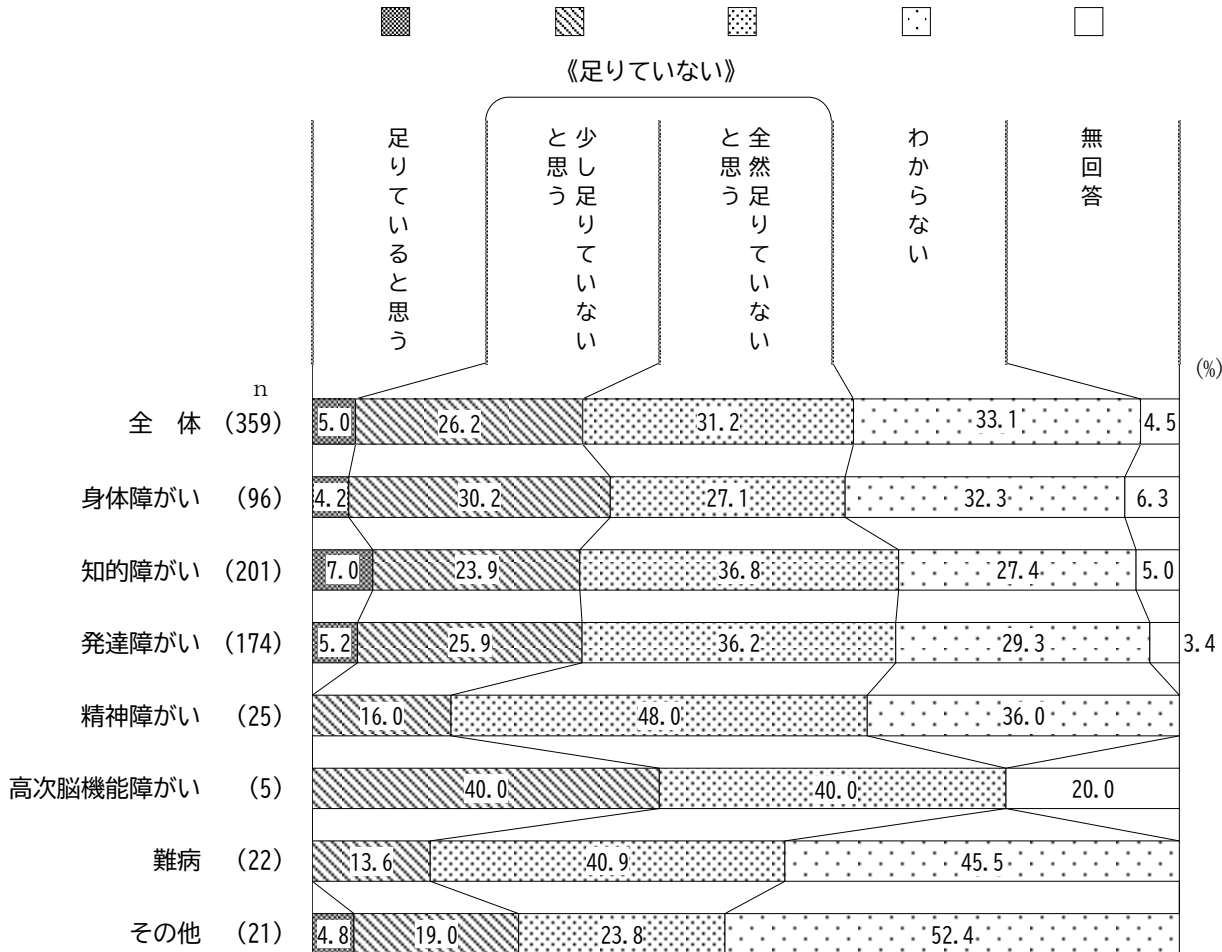
【障がい者】

障がいのある人への区民の対応や理解度は、全体で「足りていると思う」と答えた人が11.3%となっています。一方、「少し足りていないと思う」(26.0%)、「全然足りていないと思う」(14.6%)を合わせた「足りていない」は40.6%となっています。「わからない」と答えた人は40.8%となっています。



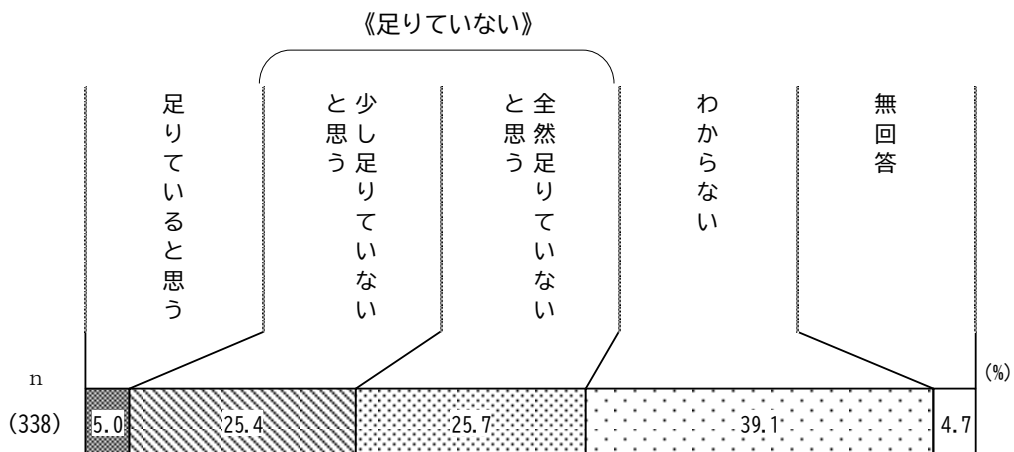
【障がい児】

障がいのある人への区民の対応や理解度は、全体で「足りていると思う」と答えた人が5.0%となっています。一方、「少し足りていないと思う」(26.2%)、「全然足りていないと思う」(31.2%)を合わせた「足りていない」は57.4%となっています。「わからない」と答えた人は33.1%となっています。



【一般区民】

障がいのある人への区民・地域の対応や理解度が「少し足りていないと思う」(25.4%)、「全然足りていないと思う」(25.7%)を合わせた「足りていない」(51.1%)は過半数となっています。一方、「足りていると思う」と答えた人は5.0%と低くなっています。



(3) 共生社会の実現のために力を入れるべきこと

問 障がいのある人もない人も、共に支え合いながら暮らすことができるように、地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことは何だと思いますか。(〇は3つまで)

【障がい者】

共生社会の実現のために力を入れるべきことは、全体で「障がい者の一般企業への就労の促進」が42.4%と最も高く、次いで「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が38.3%、「地域行事への障がい者の参加を促進するなど、地域住民などとの交流の場を増やすこと」が25.4%となっています。

障がい種別	共生社会の実現のために力を入れるべきこと	調査数 (n)	(%)								
			交流の場を増やすこと	地域行事への障がい者の参加を促進するなど、地域住民などとの	学校での障がいに関する教育や情報の提供	障がい者啓発のための正しい知識の普及	障がい者作品展やイベントの開催	障がい者交流の促進	通常の学級への受け入れやインクルージョン教育の推進	障がい者の一般企業への就労の促進	その他
全体	1,751	100.0	25.4	38.3	23.0	8.2	20.4	42.4	4.0	13.9	11.0
身体障がい	913	100.0	24.6	39.1	21.7	7.9	20.9	41.8	4.8	13.3	11.1
知的障がい	314	100.0	29.3	42.7	25.5	13.1	24.8	35.4	2.9	9.2	14.6
発達障がい	129	100.0	31.8	48.1	29.5	9.3	23.3	42.6	3.9	5.4	9.3
精神障がい	305	100.0	18.0	33.1	27.9	7.2	18.0	44.9	4.3	16.1	11.5
高次脳機能障がい	74	100.0	28.4	27.0	13.5	8.1	12.2	36.5	6.8	16.2	10.8
難病	409	100.0	26.7	44.5	23.0	6.8	22.2	43.8	4.2	14.4	7.3
その他	62	100.0	33.9	24.2	25.8	12.9	24.2	33.9	8.1	14.5	12.9

用語の説明

インクルージョン教育

障がいのある方とない方とが共に学ぶ仕組みのことです。

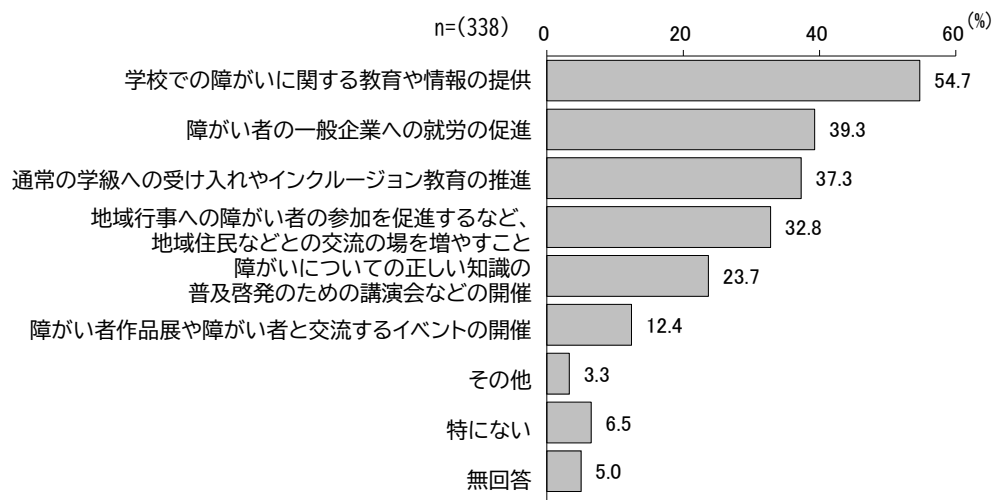
【障がい児】

共生社会の実現のために力を入れるべきことは、全体で「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が70.2%と最も高く、次いで「通常の学級への受け入れやインクルージョン教育の推進」(46.0%)、「障がい者の一般企業への就労の促進」(42.6%)が4割台となっています。

障がい種別	共生社会の実現のために力を入れるべきこと (%)									
	調査数 (n)	交流の場を増やすこと	地域行事への障がい者の参加を促進するなど、地域住民などとの	学校での障がいに関する教育や情報の提供	障がいに関する正しい知識の普及啓発のための講演会などの開催	障がい者作品展や障がい者と交流するイベントの開催	通常の学級への受け入れやインクルージョン教育の推進	障がい者の一般企業への就労の促進	その他	特にない
全体	359 100.0	20.1	70.2	17.0	8.6	46.0	42.6	7.0	2.8	7.8
身体障がい	96 100.0	20.8	69.8	13.5	10.4	46.9	38.5	9.4	3.1	7.3
知的障がい	201 100.0	25.9	71.1	16.4	11.9	39.8	40.8	6.0	2.0	8.0
発達障がい	174 100.0	19.0	73.0	20.1	6.9	49.4	47.1	5.7	1.1	9.2
精神障がい	25 100.0	12.0	72.0	12.0	-	44.0	32.0	-	8.0	8.0
高次脳機能障がい	5 100.0	-	80.0	60.0	-	60.0	40.0	-	-	20.0
難病	22 100.0	27.3	72.7	22.7	9.1	54.5	36.4	4.5	4.5	4.5
その他	21 100.0	23.8	66.7	9.5	4.8	42.9	33.3	9.5	4.8	4.8

【一般区民】

共生社会の実現のために力を入れるべきことは、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が54.7%と最も高く、次いで「障がい者の一般企業への就労の促進」が39.3%、「通常の学級への受け入れやインクルージョン教育の推進」が37.3%となっています。



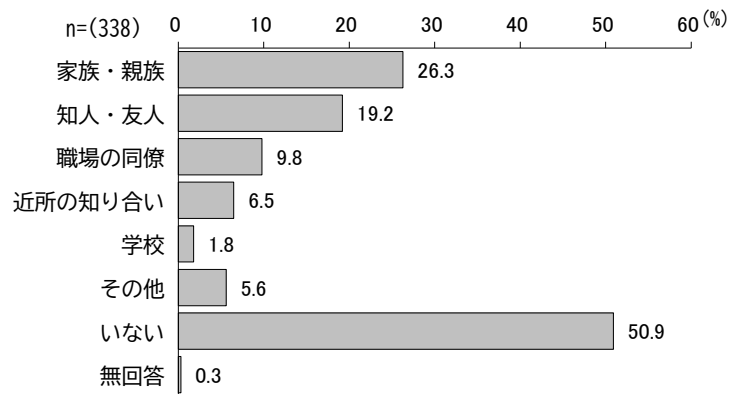
10 障がい福祉への関心について

(1) 障がいのある知り合いの有無

問 あなたは、知り合いに障がいのある人はいますか。(〇はいくつでも)

【一般区民】

回答者の障がいのある知り合いは、「家族・親族」が26.3%と高く、次いで「知人・友人」が19.2%となっています。一方、「いない」は50.9%と過半数となっています。

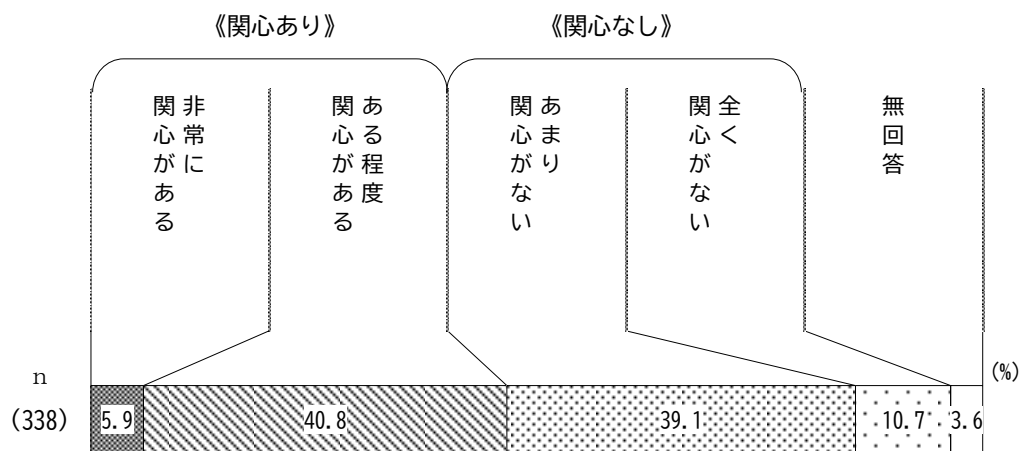


(2) 福祉ボランティア活動への関心度

問 あなたは、福祉に関するボランティア活動に関心がありますか。(〇は1つ)

【一般区民】

福祉に関するボランティア活動について、「非常に関心がある」(5.9%)、「ある程度関心がある」(40.8%)を合わせた「関心あり」は46.7%となっています。「あまり関心がない」(39.1%)、「全く関心がない」(10.7%)を合わせた「関心なし」は49.8%となっています。

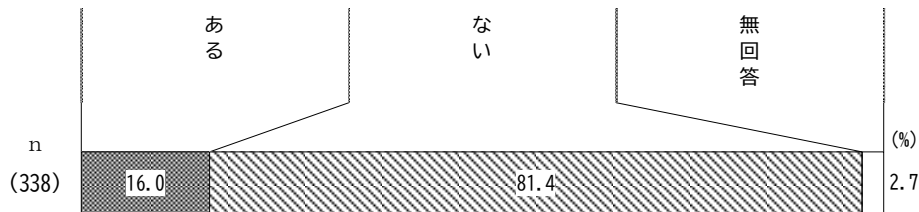


(3) 福祉ボランティア活動経験の有無

問8 あなたは、福祉に関するボランティア活動をしたことがありますか。(○は1つ)

【一般区民】

福祉に関するボランティア活動経験が「ある」と答えた人は16.0%、経験が「ない」と答えた人は81.4%を占めています。



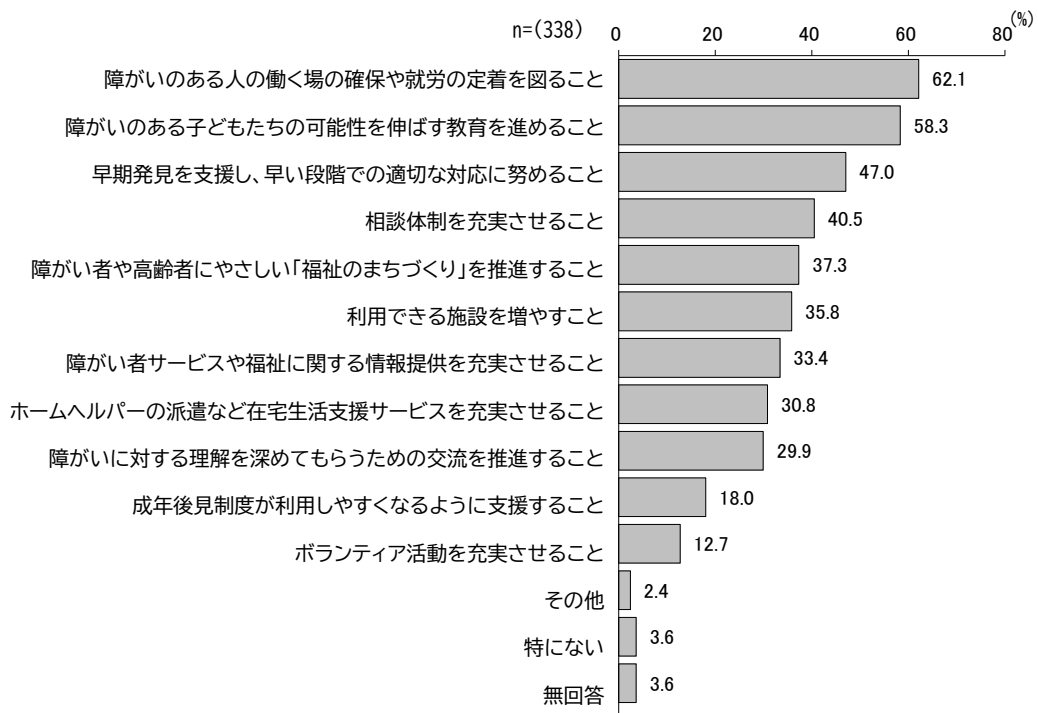
11 まちの環境や福祉施策について

(1) 障がい者施策において区に求めること

問 今後、障がい者施策を進めていくにあたって、区は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(○はいくつでも)

【一般区民】

障がい者施策において区に求めることは、「障がいのある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が62.1%と最も高く、次いで「障がいのある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること」が58.3%、「早期発見を支援し、早い段階での適切な対応に努めること」が47.0%となっています。



板橋区障がい者実態調査の結果

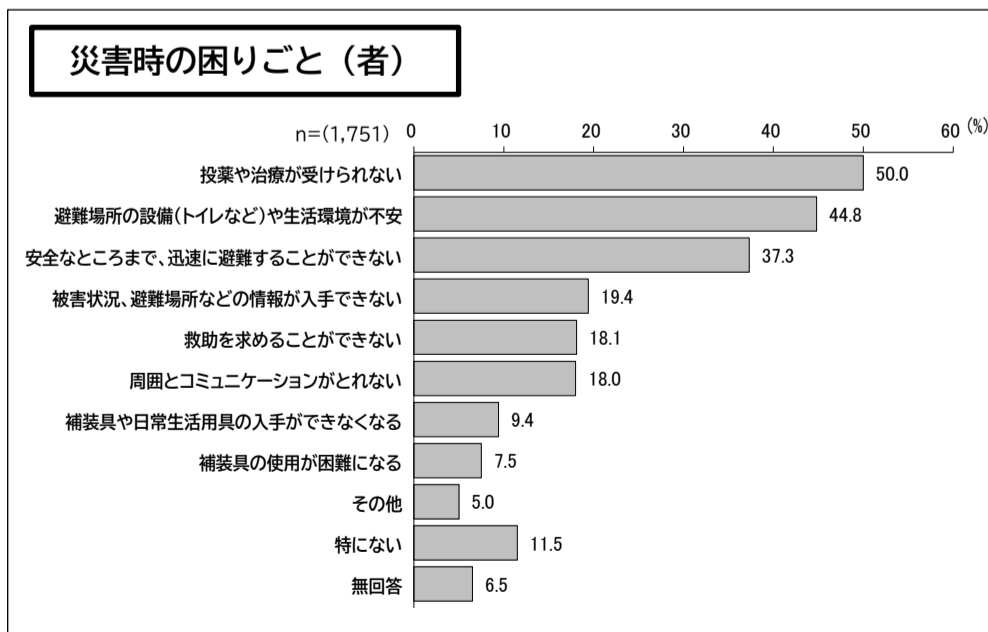
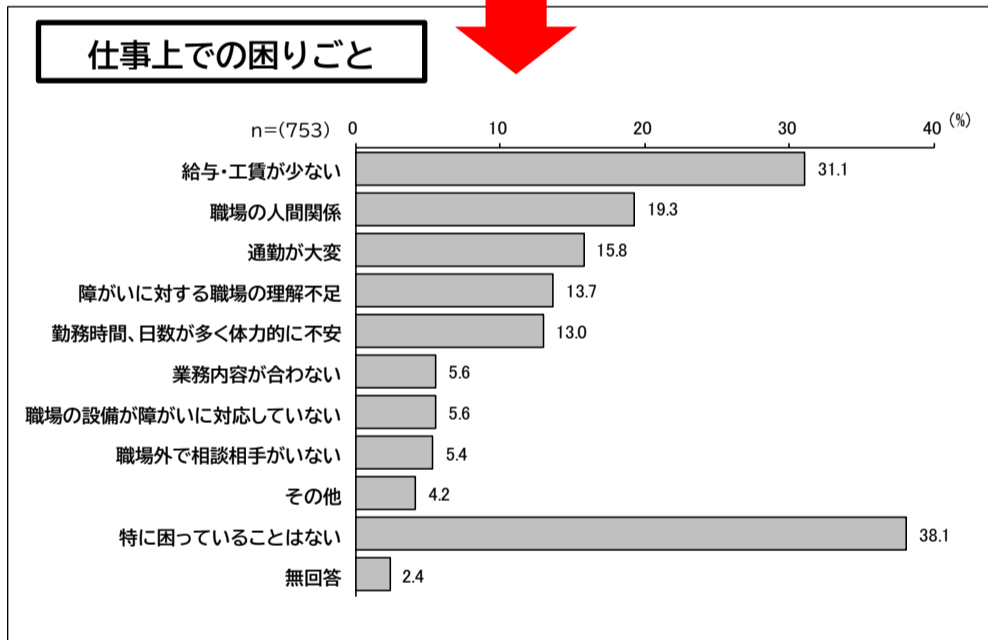
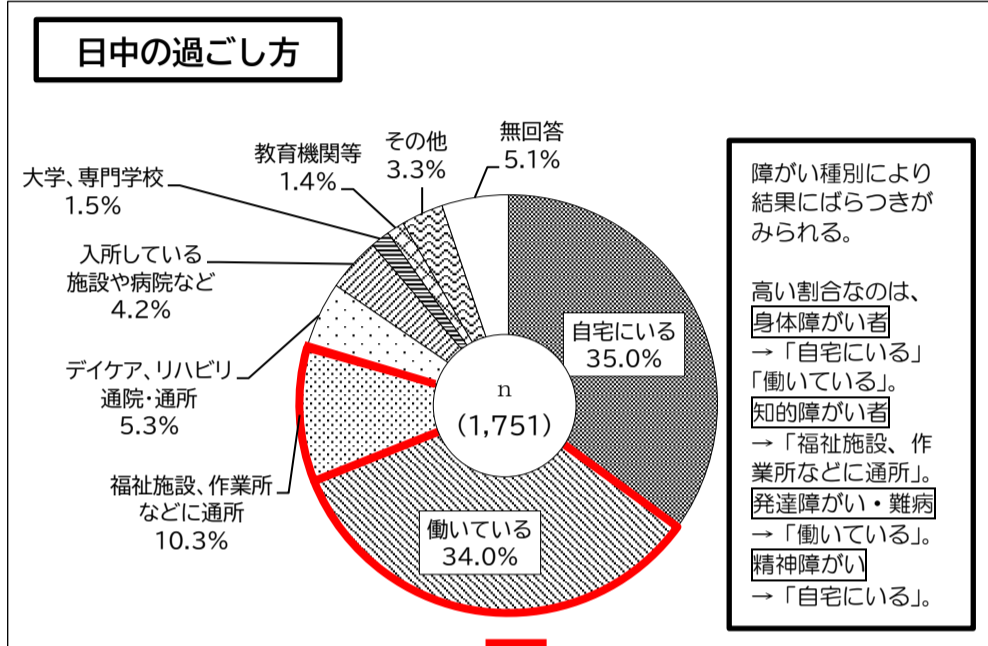
【調査対象】 障がい者・児 5,000人 → 有効回答数 2,148人 43.0%
一般区民 1,000人 → 有効回答数 338人 33.0%

1 障がい者の回答結果

回答者は「本人」が73.5%と最も高く、次いで「本人の家族」が24.0%となっている。

障がい福祉サービスの利用状況は、3割強の方が利用している。
利用しているサービスは、居宅介護や生活介護、計画相談支援が他のサービスより高い傾向となっている。
共生社会実現のため特に注力すべきことは、障がいのある人の一般企業への就労促進、学校での障がいに関する教育や情報の提供などの理解促進を求める割合が高くなっている。
障がいのある人への理解度は4割の方が足りていないと回答している。

主な設問の回答結果

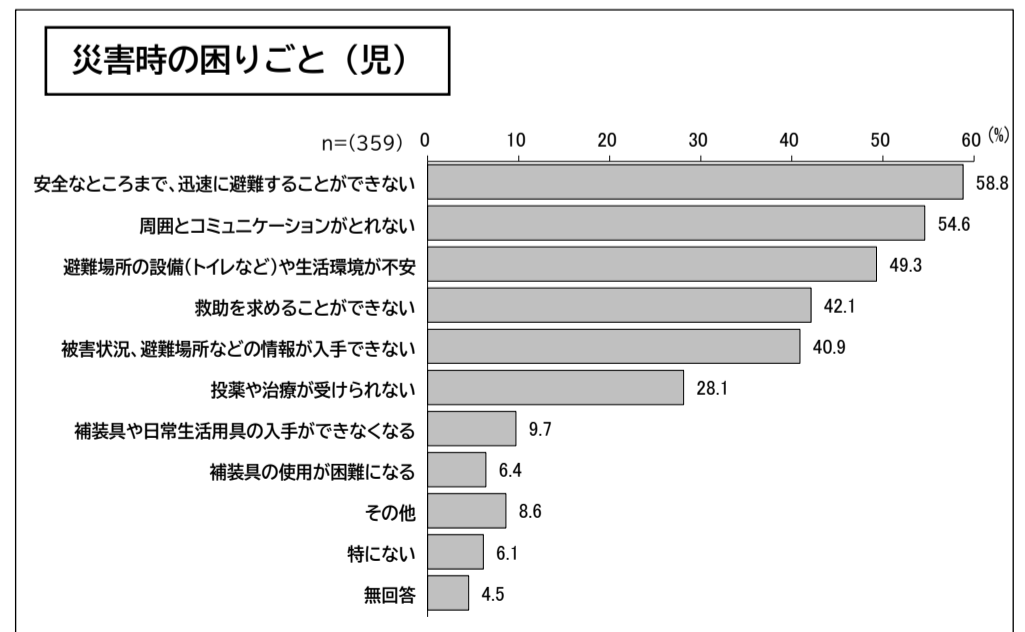
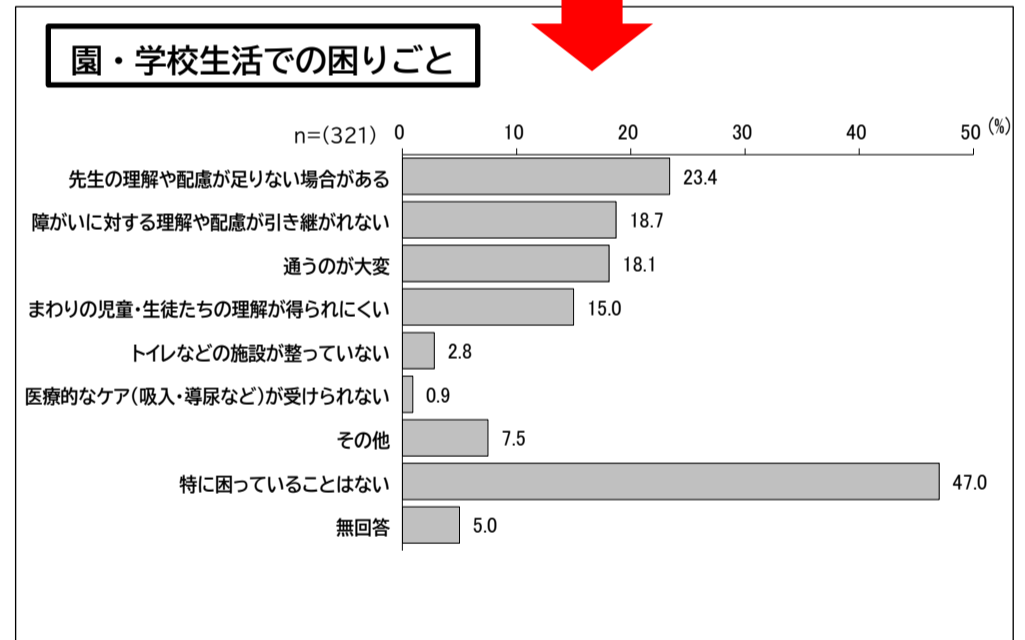
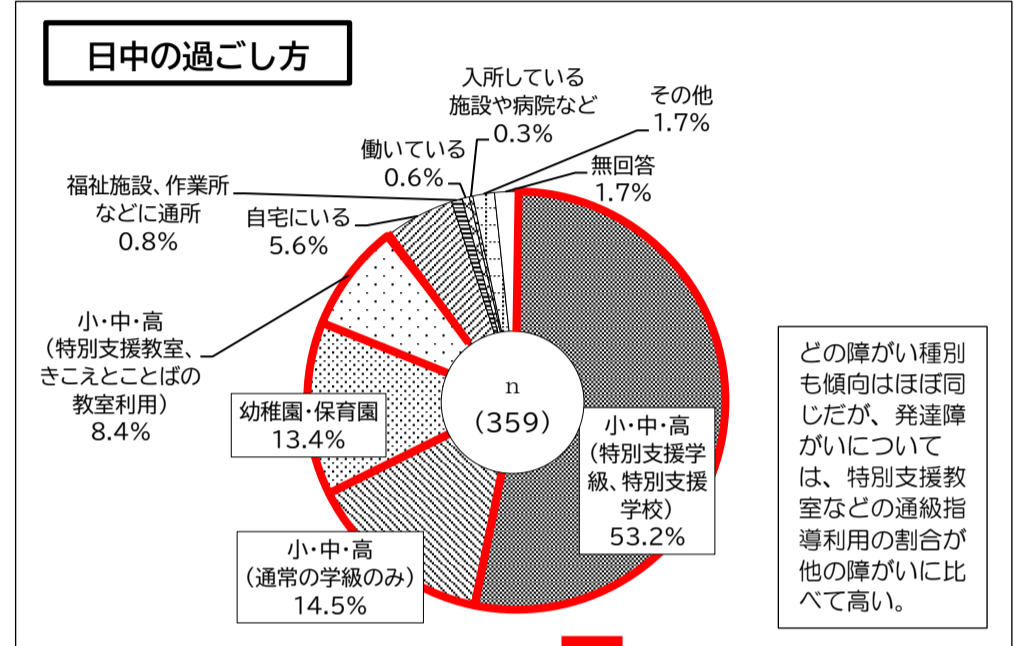


2 障がい児の回答結果

回答者は「本人の家族」が91.6%と最も高く、次いで「本人」が7.5%となっている。

障がい福祉サービスの利用状況は、6割弱の方が利用している。
利用しているサービスは、放課後等デイサービスが4割、計画相談支援、児童発達支援が2割台となっている。
共生社会実現のため特に注力すべきことは、学校での障がいに関する教育や情報の提供が7割を超えている。
障がいのある人への理解度は、5割以上の方が足りていないと回答している。
差別や嫌な思いの経験は、6割以上の方が経験ありと回答している。

主な設問の回答結果



3 一般区民の回答結果

福祉ボランティア活動への関心度は、関心がある方と関心がない方が、それぞれ5割弱となっている。
障がい者差別を見聞きした経験は、経験ありと答えた方が約5割で、そのうち1割弱の方が「よくある」と回答している。
障がいのある人への理解度は、5割の方が足りていないと回答している。
共生社会実現のため特に注力すべきことは、学校での障がいに関する教育や情報の提供、通常の学級への受け入れやインクルージョン教育の推進といった子どもたちの教育のほか、障がい者の一般企業への就労の促進といった、障がい者と同様の傾向が見られる。